愛國婦人

愛國婦人會機關（愛國婦人會の目的は軍人の遺族及び廢兵を救護するにあり）

本號附錄（本號には富美宮泰宮兩內親王殿下の御肖像を附錄とせり）

新年の辭

地球に妙なる癖あり、太陽の周圍を轉げ廻はりて止まず、三百六十五日毎に一周して玆に一年あり、創造以來既に幾千萬年、今又一周を卒へてこゝに一年の數を加ふ、人間なる者あり、新年と號して之を祝す、有史以來既に幾千年の新年もはや仕古し、お勤めに不相變目出度けれども、今年といふ今年は、始めて新年でも迎へたるが如く、眞底より目出度く嬉しきなり、何故かと改めて問ふ人もなけれど、言ひたくなるは日露戰爭なり、此戰爭たる世界一にて、日本の勝利、昨年之を片附けて一躍世界列強の隨一、本年は其荒削りに本砥を掛けて仕上げに懸る第一年、氣持が好くて愉快て眞底ゟ出度はこれが爲めなり、月日に長短なく、一年に變はりなけれど、爲る仕事には大違ひあり、幾多の年月は空しく消えて有れども無きが如き中にも、時に昨年の如き年ありて、獨り異彩を凡年の間に放てり、昨年は實に年中の王なりき、本年は如何なる年として立つかは、實に本年に處する人々の覺悟如何に在り、一日の計は朝にありといへり、一年の計豈に年始になからんや、屠蘇に醉ひ雜煮に腹鼓打つと共に、眞面目に本年の計を謀らざるべからず、新年は一種の符號なり呪なり、新年といふことが既に氣分を新にし、元氣を盛り返さしむ、新年となつて元氣も出ず、働く氣にもならねば、新年甲斐もなきことなり、中には何の新年が馬鹿々々しいと笑ふ人あれども、我等は新年を勇ましく迎ふる輩なり、お休みとなり、餅が食べられるからにあらず、新しき活動の門出としてなり、今年は一つ遣つて見んとの元氣を振り起さしむるが故なり、新、若、始、正、元等は氣持好き文字にして、年の始めに多く用ゐらる、これ我等を活動に驅るの御符にあらずして何ぞや、我會員諸姉も新年らしかれ、願くは奮、老、衰、終、等をして、其絕好の形容詞たらしむること勿れ。一年短しと雖も、三百六十五日あり、働く氣さへあらば隨分仕事は出來るものなり、働かざれば百年も何かせん、門松は何とかの一里塚などゝ弱き音を吐くことなかれ、斯る了簡で居るから元氣が出ぬなり、外所を見よ外所を見よ、爲すべき仕事は山の如くあるにあらずや、小かりし時はお正月の來りて一つ年を拾ふが待遠くして樂しかりしが、此頃の年の立つこと、これでは働かねばならぬなり、年が寄つたから樂をせうとは大きな了簡違ひなり、年が寄つたら後がないから益々働かざるべからず、門松はその催促なり、新らしき出達の門出を祝ふ飾物なり、乙女子が打つ追羽子の右に左に絕間なしきは、人間活動の趣を表はし、男の兒が揚ぐる紙鳶の空に高きは、其向上の路を示す、婦人は歌加留多に熱中するものなり、顏を火の如くし爪を立てゝも人の物を取らんとし、口惜しがり方も亦大なり、是程の熱心負けず嫌ひならば如何なる仕事も出來るものなる事を敎ふるが歌留多の役目といふものなり、餅の粘りは國民の短氣を戒め、拾ふ黑豆は辛防の成功に必要なるを說く、新年には新年の敎訓あり、我等は充分之を味ひて、之を實行に移さゞるべからず、今や砲火の戰爭は既に止みて、平和の戰爭に入るの年を迎へ、國民の任務は一層の重きを加ふ、殊に本會の事業の如き、是までは前置にて、本統は是から始まるものなれば、會員たる者は充分其覺悟を今よりして、去年は今年の初昔と明年の正月跡振返りて見んとき如何にも昨年は能く働きたり、如何にして斯くは出來たるかと自ら驚かるゝほどに働くべきなり。固より人間は生き身にて年中大鼓の皮の張り詰めて居る譯には行かず、琴の糸の弛め置く事も必要なれば、新年の初には新年らしく何事も打忘れ、笑ひ興じて遊ばるゝと同時に、新年の與ふる敎訓に就て熟考せられんことを望み、玆に日頃の主張たる活動主義を述べて、新年の辭となすと云爾。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎積善の家

評議員　三輪田眞佐子

▲なべて、善因には善報あり、惡因には惡報あるべし。故に、われ等の執るべき行爲の標準は、道理の外にはあらじ。即ち、一言發するも道理に適ふや否やを顧るべし。一擧決するも道理に合するか否やを慮るべし。果して然らは、神に體拜せずとも、神の意に戻らざるべく佛に歸依せずとも、佛の心に背かざるべし。近來、わが國民に、宗敎心の薄きを歎くものあるも、若し皆、道理を信向する美風起りなば、宗敎の形式を借らずして、自然に宗敎の要求する實行は擧るべし。反之、人々宗敎の形式のみを重んずるも、眞に博愛、慈悲の德にして實現せざらんか、心を安んずるに足らざるなり。

▲されど、世の實相を見るに、善人必しも榮えず、惡人必しも亡びざるあれば、所謂、道理の存在を疑ふものあらんも、一旦永遠の觀念、わが胸に起らんか、因果の關係は、寸毫も違はざるべし。即ち、少時の中に於ては、公平ならざるものあらんも、永遠を通じて達觀せんか、善にして報はれざるはなく、亦、惡にして報はれざるものはなかるべし。

▲亦、今日紅顔の美少孃も、明日は白頭媼となるは免れず、されど、鏡に對して歎ずるを止めよ。彼の木葉の枯落するは死滅にあらずして、更に、新芽を生ぜんがためなり。人生僅に五十年と言はゞ言ひ得んも、永遠の觀念を以て社會を見んか、人生は無限なり。即ち子々孫々、生々して殆ど絶ゆることなかるべし。

▲果して然らば。婦人の天職は、徒らに花の色は移りにけりなとのみ悲觀せずして、身心共に充分の發達を遂げて、有道、而かも、幸福なる家庭を作り、母たる本分を全くして、子孫の進化を謀るにあり。思ふにわれ等の先代は、旣に幾千歲經たりけんは知るべからさる如く、われ等の子孫は更に幾万年經るらんも計るべからず。されば、世は永遠を以て形容し、亦、永遠を以て理想とせざるべからず。

▲勿論、一個の肉體は、つかの間も平穩なるものにあらず。累々たる墳墓には、春草白骨の間に生ず。されど、其名譽と事跡は永續すべし。見よ、紫式部は影だに見えずと雖も、其著源語は、不滅なるべし。クリミヤ半島の戰は夢と去りしかど、ナイチンゲールの道心は、吳竹の進む世と共に、益す、活動すべし。其他、楠公の母及孟子の母等は、黃土に入りて旣に久しと雖も、永遠不朽の敎を垂るゝことは事實ならずや。

▲若し、かゝる遠大永續の者を懷かずして、我行爲を定めんか、朝夕の安逸のみを事とする、利己主義となりて、小にしては、一家子孫の謀を營む能はず、大にしては、國民万代の策を建つる能はざるべし。あわれ、生れて蠢々として爲すなきものは、全く永遠の觀念なくして、姑息に安んずるがためならんか。

▲次に、平和を以て理想とすべき婦人の大敵は、彼我の邪見を立つるにあり。そもく、彼我は差別の極にして、甚しきに至らは、已を厚くして、人を遇するに薄く、自ら。飽食暖衣に慣れて、他の寒に泣き、飢に叫ぶを聞かんも、同情なきに至らんかし。茲に於て、博愛の敵となり、慈悲の敵となり、將た、仁の敵となるべし。などか、社會に平和なるもの實現せらるゝことあらん。

▲まことや、人生は夢にあらずして實なり。故に、これに處する婦人たるものは、夢に歲月を送るべからず。一擧手、一投足將に眞面目なるべし。一時の僞善を行はずして、永遠の眞善を行ふべし。目前の肉體的安逸を貪らずして、永遠の良心的安心を求むべし。我が發する聲は、永遠の響と知れよ。我が決する行は、永遠の影と知れよ。古語に曰く、積善の家に餘慶ありと。實に、眞なる哉。

◎大問題に着眼せよ

評議員　鳩山春子

「婦人は赤子を保育する如く苦勞心配をも養成す」と或る書物に見えました、これは婦人に取り甚だ遺憾なる語となしますが、併し公平に考へますと、この中に幾分眞理もあるかと存じます、婦人は日常の業務に就て重要なる問題に思考を勞すると申す事は稀てあります、從て有益なる方面に心を働かす場合が少ない傾向があります。左れど人の心は休む事なく働くものでありますから、時には考へずともよき事を考へ、所謂神經質となりて小さき心配を求めて大きくする事があります、又男子なれば互に會合しても用談にあらざれば話の題目が大きく、世界の時事に就てか左なくも國家問題、人權問題等一般に渡りて興味を以て居られますから、個人問題に就て後患を殘す如き事はまづありません、然るに婦人になりますと識見も狹く、時事問題などには餘り興味を感じませんから、ついく友人の批評とか噂とかが出て、それが又轉々して評された人は一笑に附して置かず、神經を起し、人を怨むとか友人間の交情を惡しくするとか申す如き事がないとも限りません。何卒これからは婦人も心を廣くして、益にもならぬ心配苦勞はせぬ樣に、又人の評などを氣にせぬ樣に、即ち貴き時間を煩悶などの爲めに費す事なく、其間に心身を修養すべき書物を讀まるゝ樣に致したいと切望に堪へません。

◎婦人と馬

農商務省畜産課技師　西川勝藏

◉野外運動　日本人は火燵的國民であるとの評を受ける程に家の內に引込み勝であるが、西洋人は隙さへあれば野外に出て運動する、外國の公園などで數百組の夫婦が轡を併て運動して居る有樣は實に見事なものであつて、我々の眼から見れば其國風が實に羨ましく思はれる

◉良馬　アラビヤ馬と云ふのが世界で一番よい種になつて居ります、何故に此馬が斯くよくなつたかと云ふに、アラビヤ人種は馬と生存を共にして、馬を恰も家族のやうに取扱ふて居るからである

◉婦人の賢は良馬を作る　日本內地でも馬の產地たる奧州地方に參いて見ますると、良馬を作り出した家には必ずよき婦人が居ります、婦人は同情に富み且つ手柔かでありますから、動物を飼用するには最も適當して居ます

◉馬の性は善なり　孔子は人の性は素善なりと解かれましたが、馬の性もまた善であります、然るに日本の馬は兎角く荒らいと云ふ人がありますが、これは馬が惡いのではなくして、之れを扱ふ人が惡いのであります

◉馬と公德心　馬は人に向つて苦痛を訴へる事さへ出來ぬ可憐なる動物でありますから、人間は之れに同情を表してやらねばならぬのでありますが、日本人は馬が物を言はぬを幸ひに、飼主の眼を盜んで馬に對し惡戲をするものが多くて困ります、知らぬ他人でも親切に扱つて遣りさへすれば、決して蹴つたり刎ねたりするものではありません、人を見るとはねたりするのは、惡戲を防ぐ防禦的に行ふものでありまして平常よく愛せば決して人に害を與へるものでありません

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎一年の計は元旦にあり

評議員　山脇房子

昔から一年の計は元旦にありと申しますが、本號は恰も元旦に發行されますから、一年の計の一つに加へて頂きたいとぞんじますることを一言述べます、皆樣御承知の通り、本會が最初御婦人方に半襟一掛を儉約して、會費に充て丶被下る樣に致しましたのは、つまり御婦人方が成るべく冗費を省いて、これを本會の如き有益の事業に使用なさる樣にとの主意に出たのでございます。

然るに、若し婦人方が齊家の事、即ち老人子女の世話もせず、家族の衣服は勿論襦袢の襟までも雇人に任せ置き、自分は終日何もなさずして、食物の驕りや、衣服の贅澤に、彼此と日を送つて、節儉と申すことを少しも心懸けないと申す樣では、本會の主意に適はざるのみならず、戰後多額の負擔を荷ふて居る今日の婦人の心得とは申されませむ。

昔の婦人方のことを承りますると、先づ毎朝未明に起き出でまして、食物のことは申すまでもなく、着物の世話から夫婦支度の月代より、結髮のことまで皆自からなし、なほ夫出勤留守中も、老人子女の世話は勿論、糸を紡ぎ、機を織ることから、衣服の仕立等一切人手にかくることなく、日夜汲々として儉約に家政をとつて居られたと申すことでございます、申すまでもなく昔と今とは、主婦のなすべき仕事が違て參りましたから、現今の婦人は昔の婦人の樣な仕事は致しませむ、代りに子女の薫陶、夫の內助、一家の經濟、或は社交とか、公共事業とかに充分盡して居らる丶ならばそれでよろしうございますが、これは或少數の御婦人の外は、甚だ覺束ないものではございますまいか。

して見ますると、折角文明の教育を受けた現今の御婦人方が、昔の教育を不充分であつた婦人方に主婦の本分と申す點に於ては却て劣つて居ると申さなければなりますまい、これは如何にも殘念な次第でございます。

一昨年以來我國は、巨額の公債と戰時税其他によつて殆んど二ケ年に亙る戰爭を繼續致しまして、漸く今日の結果を得るには至りましたが、全體此戰時税と申すものは、戰爭中丈の税であつて、平和克復の今日は之を繼續すべき筈のものでない、けれども今後陸海軍備の復舊、其他戰後經營事業に巨萬の資金を要しますから、已むを得ず戰時税を此儘繼續致さなければならぬ、國民は義務としてこれに應じなければならぬ、若し國民がこれに應じませむ時は、軍備の復舊も戰後の經營も出來ぬと申す、實に困難極まる場合でございます、故にその消費方に當つて居る御婦人方は、此際勉めて出費を節し國家財源の扶殖を計ることを、新年の計の一つにお加へ下さることを吳れ〴〵も希望致します。

◎婦人の交際に就て

評議員　高木鎌子

婦人の交際にも二た通りあります、まあ云つて見ますると、公事上の交際、私事上の交際とでも申すので御座いませう、公事上の交際と申すのは、慈善事業や教育事業などの公共事業の目的の爲めに、多數の方と交際致すの意味で、私事上の交際と申すのは、親族間の交際とか、學友間の交際とか云ふ、最も親しき間柄の交際で、其の交際の目的は皆私事に屬して居ります、公の交際が必要であると全時に、私事上の交際も亦婦人にとつては大に必要かと思はれます、夫れは公事上の交際では、家庭に關する事などは持ち出して相談することは出來ませぬが、私事上の交際では、互に家庭の進歩發達を計ることなどを協議し、日々起る家庭の實際問題について研究し合ひ、一方の惡るいと思ふ點は遠慮なく忠告是れを止めしめ、また善い所は之れを採用することが出來ます、子供の教育方は勿論、下女の使ひ方、食料品等の購入方、衣服の調達方に至るまで、互に相談して行ふことに致せば、今日の家庭よりは尚一層改良整頓した、立派な家庭を形ち作ることも出來るかとも思います。

◎小兒の家庭教育（四）

ドクトル　川瀨元九郎

子供は男でも女でも或は年長者でも年少者でも皆同樣に取扱ふがよいと思ふ、我國では古來より長男は家督を相續する權

利を持つて居るので、家庭に於ては何事に依らず優越權を得て居る、「兄さんがお先です」とか「長兄に聞いてから」と云ふ工合に遣る、年少者は長兄を小なる嚴父である如く、尊敬を表し、何事に依らず長兄に讓る、長兄は之れに増長して權威を振り廻はす、父の代理として少年者に命令を下したり、時としては年少者が過失を出來す時は親より特に許しなくとも、勝手に犯罪者を裁判し、是れを刑罰することすらある、是れは宜しくないことであると思ふ、年長者たるものが必ず豪いといふ譯のものでない、何にもそんなに敬ふべきものでない、家督を相續する權だけ特に許して遣れば夫れでよい、其他の事は同等にして遣るが宜い。今のやうな工合であると、兄弟姉妹感情を惡くし、兄弟の愛情を冷却する虞れがある、兄弟は最も親密でなければならぬ筈であるのに、我國では兄弟は他人の始まりと云ふ諺さへある、これは全く兄弟に差別を付けるから起つたことであると思ふ、家庭に於ける不平を家庭外に出て洩すとか、兩親の有命中は忍耐して居るけれども、亡くなつた後は兄弟喧嘩をするやうなことが屢々ある、故に從來の習慣を改めて子供が皆一樣に取扱ひ、年長者は成べく年少者を保護するやうに、また年少者は年長者の保護を受けることがあるから敬意を表すると云ふとにしたならば、兄弟姉妹互ひに仲よくして往くことが出來るであらうと考へられる。斯くて家庭の和合を期することが出來るし、また各々生長して社界に立ちても反目するやうなことは決してなく、誰よりも一番親密に且つ協力して何事をも爲すやうになるであらう、幼少の頃より斯樣な主義を以て養育して行くと云ふことは子供の將來に取つて、實に重大なる關係のあることは言を要するまでもないことであると思はれる。

如何なる種類のものを問はず之れを蒐集して地方一般の參考に供するは甚だ有益の事業なり自ら進んで其任に當る所の婦人は單に己れの知見を擴大するのみならず他の年少者をして實際に有益なる自然の娛樂を追求せしむるに至るなり

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衛生小説

髪自慢

糸左近

『貴女は二三年以來、何うして其樣に御髪が宜しくなつて來たんでせう、一つ孔から二三本宛も出てゐるやうに茂々と生へてゐて、それで硬過ぎず軟か過ぎず、黒くて美しく、マア漆の溢れるやうだこと、それに引換へ、妾のは薄くて赤く、硬くて縮れ、加之に處々白髪まで交つてゐるんですもの、妾羨ましくてなりませんわ、屹度何か良い御藥を御塗けなさるに相違ありますまい、妾にも何うか敎へて下さいましよ、ね－貴女』

『別にこれといふ御藥も用ゐませぬけれど、唯髪毛の生理に從ひまして……』

この二人は其夫同志が互に無二の朋友なる所から、自然と妻君達も姉妹の樣に交はり、今日は元日、御芽出度の鸚鵡返も濟み、儀式の御屠蘇に女ながらも、うき世の事など打忘れ、遠慮無く問へば遠慮無く答へたる髪毛の生理、しげ子は愈々語る、きく子は愈々銘記するのである。

『全體、毛は皮膚の變化物でありまして其の皮膚の底には數限りの知れぬ多くの皮脂腺及び汗腺といふ二種の管附の嚢があり、其嚢から脂と汗とを出し、其の脂は他にも色々効用がありますけれど先づ髪毛を養ふものであるし、汗は身體の老癈物を流し出し、且つ體溫を調ふるものであります、それ故汗が澤山出て、其老癈物が垢となり。脂の口を塞げば髪は愈々惡しくなる道理、されば其の道理に從ひ、滋養の食物を取り、運動をなし、且つ心配せぬやうにし、皮脂を多く分泌させ、又頭の皮膚上を清潔にし、垢の溜らぬやうにせねばなりませぬ。』

『その清潔法は如何致したら宜しいでせうか。』

『度々刷子を以て雲脂を落し、加里石鹼を塗けて時々頭を洗へば、垢の溜る暇がありませぬ。』

『滋養物と心配は髪毛と何んな關係がありますやら』

『滋養物少く心配多ければ頭の血液は惡しくなり、隨つて大切なる脂も少くなるし、髪を黒くする色素も減り、次第に毛の發育を妨げられ、或は縮れ、或は赤く甚しきは白くもなるやうな始末、されば古人も「白髪三千丈、依レ愁如レ個長」と言つてるぢやありませぬか、序でに申上げておきますが時たまには毛尖を少し宛剪つておかねばなりませぬ』

『それア又何うして』

『御庭の樹木を、何ぜ植木屋に態々鋏を御入させになりますか』

『成程さうで御座いますね』と、きく子は深く感に打たれたる後、又言葉を續けて

『さう致しますと、すき油鬢附の如き物は宜しくありませぬやら』

『鬢附を多く塗れば空氣の通ひを惡しく致しますが、油は皮膚の不足を補ひます故、少々は御用ゐになつた方が宜しう御座いませう』

折しも轆々車の音するは主人の歸宅。

『最前から緩り御馳走樣になりまして』

『色々と髪毛の生理を承はりまして』

主人は例の八字を撚りながら、

『それアお前に取つては何よりのお正月だ、併し失禮ながら奥樣にも比難がある、奥樣は小體で居らつしやるから廂髪は御似合申さぬ、又お前は丈が大きいのに丸髷は可笑しい、そこで廂と丸との取換を斷行すべしですなハ、、、』

『オホ、、、』

『オホ、、、』

笑ひ賑めく一家の賑はしさ、めでたし〳〵。（終）

◎お正月の美衣

久津見蕨村

▲明けましてお目出度ございます。子供衆は悦んで盛んに遊びませう。そこで親御達も御用意の春衣を出して子供衆にお被せになり、其一層可愛らしくお成りのを御覽てお喜びでございませう。誠に結構なことでございます。

▲併し玆に一つ御注意申したいことがあります。それは外でもありません。春衣——美衣の事であります。隨分高價を御出しになつたのもありませう。從つて大切になさる思召しが親御達の心の中にあるであらうと想はれます。そこで、

▲『美衣ですから汚しては不可ません。』『荒いことをしてはなりませんよ』との言葉が必ず附いてまはらうと想はれる。或は子供衆が若し偶然として汚したり、裂いたりしておいてになると一大惡事でもなさつたかのやうに立腹して小言を云はれる親御がありませう。

▲斯うなると子供衆は、常よりは窮屈な譯です。美衣を着たのは宜いが汚してはならんから、日常のやうに氣まかせに遊ぶことが出來なくなる。遂には樂しみなお正月も苦しみなお正月になる。之れではお正月々々と樂しんだ甲斐がなからうと想はれます。

▲之れては子供が可愛さうです。そして亦そう窮屈な思ひをさせるのは一時とは云ふもの丶、子供の衞生、教育に取りて決して善いとてはありません。一つは餘り美衣を用ひさせますと頑是のない兒に虛榮心を敎へるとにもなります。

▲ですからお正月の衣美は、木綿て宜しい。垢の附かない清潔としたものてさへあれば善い。而していくら汚しても惜氣のないのに限ります。そうなれば子供衆は樂てす。親御も心配はいりません。子供はドン〳〵遊べます。此自由に遊ぶと云ふことが若干程子供の身體と心意の發達の爲になるか知れません。

▲松飾の下に、他の子供が活潑に遊びまはつてをるのを羨ましさうに見ながら、友染や縮緬の衣服の袖を大事さうに掻合せてをる萎縮た子供がションボリと立つてをるのは、決して善い春の景色てはありますまい。木綿でも清潔した活達姿て雪の中でも萎ずに飛んで行くやうな男女兒が、公園にも市街にも充ちてをるのが誠に目出度春てはありませんか。

◎玩具と其製造方

商品陳列所技師　笠原吉太郎

◎文明と玩具　一國の文化を知らんとするには、先づ以て其國の玩具屋の前に立つて見たならば直ちに知ることが出來ます、日本の玩具と西洋の玩具とを比べたならば甚しき相違があります、今之れを比較して見ませう

◎普通なる玩具　玩具として最も善きものはと申すに、第一安全なる物、第二堅牢なる物、第三廉價なる物、第四自動的の物、第五實際的の物、以上五つの要素を備へて居なくてはなりませんが、日本にては廉價と云ふ一事丈けは西洋の物よりは勝つて居るか知れませんが、他は皆劣つて居ります

◎危險な玩具　如何に巧妙に出來て居つても、危險な物は家庭に用ゆることは出來ません、危險な物の内最も危險なるは着色であります、西洋の玩具は余程注意して居りまして、染料を分析して見ても危險なものは少ないが、日本のは外形にも其内容にも危險の物か多い

◎實際的玩具　西洋の玩具は余程實際に近く作つてあつて、人形の如きでも關節が皆屈曲するやうに出來て、椅子に腰を掛けさすことさへ出來るやうに作つてあり、之れに着せる衣服も下着まで實際的に出來て居りますが、日本の玩具は兎角く表面だけ調ふて居つて、内容は殆んど調ふて居らぬ

◎自動的玩具　科學思想を發達せしむる目的と、獨立的精神を養ふの目的を以て玩具は成る可く自動的のものを作るやうにせねばなりませぬ

◎玩具の發明　日本人は眞似をすることが上手な國民であると西洋人は申して居りますが、玩具程眞似して作るものは少ないかと思はる丶程に人の意匠をとります、故によく賣れる新らしいものが出ますと、直ぐに夫れより廉價な眞似をした物が出來ます、夫れ故に此節では實用新案登錄法と云ふを設けて、特別の保護を與へることになつて居ります

◎西洋玩具　日本の兒童は西洋の玩具は余り好まぬやうである、護謨人形などは永く保存もされ、危險もなく、大變よいやうに思はれますが、實際子供は何處の家庭でも好まぬ其他余り込入つた玩具は日本の子供は好まぬやうであります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年

東洋の天地をしばし覆ひ褁みたる黑雲も、年の明くると共に名殘りなく晴れ渡りて、出づる朝日の御光も今日はわけて麗はしう仰がれ候を、各地會員の君達には、益御健勝、御齡を重ねさせ給ふらむと目出度存上候、我れ等一同亦無事新年相迎へ候まゝ、御心やすう思召され度候。扨て日露の戰爭も、美事なる我が國の勝利もて、名譽ある平和の終局を見るに到れりこれ畢竟　天皇陛下御稜威の然らしむる所に候へども、また忠勇なる軍人諸氏と忠良なる國民の賜物に外ならず候。而して婦人の裏面に於ける後援が預つて大に力ありしことも、一般に認めらるゝ所に有之、我が愛國婦人會も、其間に在りて軍人遺族の救護を首め、恤兵慰問等の爲め、聊か盡すことを得たるは　總裁宮殿下の難有き思召に依れるは申すに及はず、會員諸氏が良く令旨を體して、其實行に勉められたるの結果に有之候。然れども我が會の事業は戰爭と共に終らず、平和となれる今日こそは却て從前よりも一層責任の重きを來せる次第にして愛度新年を迎ふると同時に十萬の遺族廢兵を救ふ覺悟を要するに候へば、本年は戰時にもいや增して、邦國の爲め、會の目的の爲に御互に盡力致度ものに御座候、先は新年の御祝詞まで、めでたくかしこ

明治三十九年一月一日

愛國婦人會

監事　男爵夫人　三井苞子
同　公爵世嗣夫人　九條惠子
理事　子爵夫人　谷玖滿子
同　侯爵夫人　山內禎子
同　侯爵夫人　鍋島榮子
同　侯爵夫人　大山捨松
同　前公爵夫人　毛利安子
同　公爵夫人　島津田鶴子
同　前公爵夫人　近衛貞子
同　公爵夫人　德川泰子
同　公爵夫人　一條悅子
會長　公爵夫人　岩倉久子

愛國婦人會支部職員
愛國婦人會々員　御中

愛國婦人會記事

◉評議員例會　一月分評議員例會は左の如し
一月廿四日（第四水曜日午後四時）

◉奥村刀自歸京　石川縣の遊說を了て去月二十五日歸京せり夫れより鄕里唐津にて越年せらる

◉寄附金披露　其の後拾圓以上の寄附金者左の如し

一金貳百圓　東京市神田區　共立女子職業學校
一金百圓　兵庫縣　小曾根茂子
一金五拾圓　在清國北京　服部宇之吉
一金參拾參圓　東京市赤阪區　男爵夫人黑木百子
一金貳拾壹圓六拾錢　東京市本鄕區　井村整興社
一金貳拾圓　仙臺市　松永富
一金貳拾圓　同　古莊千鶴
一金拾圓八十錢　東京市本鄕區　東宮糸子
一金拾圓　同小石川區　厚德會
一金拾圓　同京橋區　カルピー夫人
一金拾圓　同神田區　山口サダ子
一金拾圓　三河豐橋町　林某
一金拾圓　福島縣福島町　大宰ゑい子

◉節操善行者旌表　軍人遺家族の內節操又は善行者旌表方に付き三十七年八月三十日付愛第五七號を以て各支部へ通牒を發したるに基き第一着に調查報告ありたるは奈良支部の左の三名なり他支部に於ても右に傚ひ夫れ〱精查の上至急報告ありたし

奈良縣添上郡田原村大字南田原四百六十六番地　松浦マサエ

子は故陸軍步兵一等卒松浦寅一郎氏の未亡人なり性最も柔順貞節にして夫の意に違はず孜々として家道を盛せり客歲二川東洋の風雲亂れて露國と釁端を啓くや皇師堂々征伐に就くや氏も亦た徵せられ出征報國の赤心は克く其任を盡し屢々偉功を奏彰すれ然るに氏不幸病魔の誘ふ所となり[illegible]に永眠不歸の客となる嗚呼子は夫出征已來業行殊に謹愼克く閨門節を正し一家の整理と幼兒の養育とを一手に引受け神佛に祈願して凱旋の曉を待て然るに此の訃音に接せし後子は益々一人の幼遺子を賴みとし其の養育に餘念なく專ら家業を勵み貞節愈々堅く恰も青松の翠を千歲に垂るゝが如し近隣其の淑德を嘖賞せざるなし實に此の人こそ適れ軍人の妻と謂ふべく又婦女子の龜鑑と云ふべし

同縣添上郡東市村大字八島五番屋敷　町野ハルエ

子は陸軍步兵二等卒町野彌市郎氏の妻にして夫彌市郎客歲七月一日演習召集令狀に接し步兵第三十八聯隊へ入隊せられたり氏は原より家產を有せしものに非らず小作農業を本業にして漸く一家の生計を經營し居れりハルエは人と爲り操正しく夫入隊後小作田圃の作業を維持し毫も倦むる色なく齡二十餘歲野末の竹草ら紅線を紡ひ出すべき年なれども敢て紅紡をせず啻に五歲なる幼兒を攜育し纖弱なる身を以て晝は宛がら男裝の如き姿容をなし自ら鍬鋤を探り稼穡に從事し夜は深更まで機織をなし拮据[illegible]勵家政に心身を碎き謹愼克く閨門を守り一家和氣藹々遠征の良人をして內顧の患をなからしめ粒々辛苦慰安し軍國の女子たる本分を盡したるものなり世人誰か感歎せざるものなし實に夫れ婦女子の龜鑑と謂ふべき乎

同縣添上郡辰市村大字東九條百九十三番地　山田ナツエ

客歲二月東洋の風雲亂れて露國と釁を啓くや我貔貅[illegible]北陬に望む夫淺吉氏の內に加はり熱誠克く至[illegible]を全くせられ皇師向ふ所風靡せざるなし然れども遺憾なる哉氏不幸にして敵彈一發の下に斃る嗟呼婦は夫出征に當り精心確實節を守り老母と共に克く幼兒の生育と敎育とに心を傾け家政を經營し一日も早く凱旋の期を待ちたるに訃音に接す千悲嘆して止まず然れども益々貞操を守り和氣藹々として農事に精勵能く亡夫の靈魂を弔し閭郡誰か歎賞せざるなし實に婦女子の龜鑑と謂ふべし

來る十七日午后一時より九段坂上偕行社に於て例年の通り本會役員の新年互禮會を開催す　御出席の方は當日會費金參拾錢御持參相成度候

愛國婦人會

本部役員
東京支部役員　御中

◉東鄉商店の寄附　本鄕區三丁目美術造花店東鄉商店にては昨年十月以來本業の傍ら「凱旋」と名くる造花と簪を毎日拾本宛製造し其賣上金を廢兵救護事業に寄附するの主旨を以て一本毎に寄附券一枚を添附し來りたるが此程その賣上金拾圓八十錢を本會へ寄附し來れり

◉各地支部狀況

◉東京支部　同支部各幹事部に於ては昨年來慈善演藝會を開催したるが成績頗る良好なりしを以て郡部に於ては本年も引續き又た〱開催する由なり

◉熊本支部　同支部例會は去月十八日熊本市願正寺に於て開會相談役橋本事務官は挨拶に引續き支部行動上につき希望を述べ次に南木大憲師は戰後婦人の心得につき講話をなし終つて河內山主事の會務報告ありて散會したるが當日の出席者は五十餘名にして頗る盛會なりし

◉福島支部　同支部信夫郡幹事部にては去月九日信夫郡役所樓上に於て幹事會を開き凶作に對する善後策を協定したり協議事項即ち左の如し

一、會員は各町村を一團體とし一の行動を取り凶作に對する善後策として家事の許す限り專ら副業に從事し多少に不拘收入の途を講ずること
一、副業に因り得たる賃錢中より會員一人に付一ヶ月金拾錢を貯金すること
一、本項の貯金は他日各種の公共的事業及び慈善事業若くは救濟事業等の資金に供するか若くは同志義の事業中に寄贈すべき準備金となすこと
一、會員は互に氣脈を通じ會員外の婦女子にしてバテン縫經木眞田編等に從事せしむる事に勸誘すること
一、前項外餘暇を以て有志者より古端書古雜誌古新聞古着古下駄古傘古帳簿古本等廢物の寄贈に力むること
一、本項の寄贈品は貧困にして就學し能はざる兒童を保護するの方法に充つるものとす
一、會員は此際特に勤儉貯蓄の必要を說き自ら實行して模範を示し其習慣を涵養すること

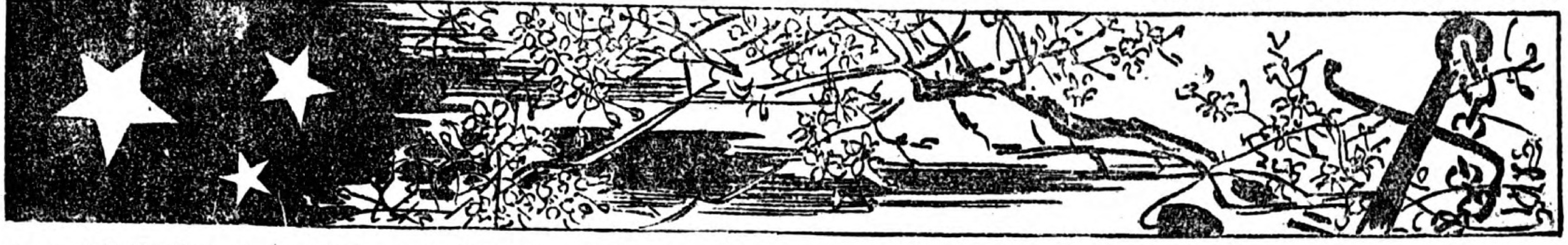
斯くて幹事員の熱心なる歸村直ちに各小學校敎員、神官、僧侶、醫師等に謀り第一着の事業としてバテン縫を始業し今や同幹事部內三町二十四ヶ村農家の女子殆ど一千名以上此業に從事し居れり

明治三十八年中本會重用記事

▲一月　一月十二日に新年互禮會を開き閑院宮妃殿下を始め東伏見宮久邇宮梨本宮各妃殿下御來場あり來賓には東郷大將上村中將等來會盛況なりし此月英國赤十字社より一萬五千圓の寄附金來たる▲二月　軍隊恤兵用として會員より繪葉書寄贈の擧を企てし處大に成功し百二十二万枚餘集りこれを陸海軍恤兵部に寄附したり▲三月　各府縣主事招待會を開き事務上の打合を爲したり評議員岡部子爵夫人靜岡縣地方遊說の途に向ふ▲四月　第四回通常總會を四月二日九段偕行社に於て擧行す　皇后陛下御來臨御令旨を賜ふ本日法人の組織となる▲五月　靖國神社祭典執行につき參拜の遺族を牛ケ淵公園に於て接待し各職員出張大に盡力せり▲六月　海戰大捷祝賀會を兼ね閑院宮殿下御凱旋歡迎會を開きたり▲七月　奥村刀自一行滿洲軍慰問の途に向ふ此月鹿兒島支部總會及函館支部發會式を擧ぐ▲八月　資產管理處分規則內務大臣より認可を受く▲九月　遺族廢兵に門標を製定し之を交附することに定む此月廿二日岩倉會長は東北遊說の途に上らる青森福島兩支部總會を開く▲十月　平和克復後に於ける會員の行動を指導せんため　總裁殿下より御諭旨を賜はる此月奥村刀自歸朝す愛媛香川德島支部總會に大山理事[illegible]出張す▲十一月　遺族廢兵の爲に優待員章を制定し東北及四國地方に出張せし大山理事濟浦東郷の二[illegible]宮中に召出され有難き恩旨を拜す奥村刀自石川縣に遊說す群馬縣總會に二條理事以下出張せり▲十二月　本年內救助金支出額は二萬四千三百三十圓余を支出せり十二月調會員の總數四十五万八百三人に遂せり

謹賀新年

愛國婦人會
本部事務員一同



◎馬内侍

三浦千畝

我國文運の隆昌を言ふもの、先づ指を平安朝に屈せざるはあらず。しかもこの朝の文學を代表し、文範を後世に遺したる源氏、狹衣、枕草子、蜻蛉日記の如き佳篇大作が、悉く女流の手によりて織出されたる錦繡なりといふに至りては、誰かまた驚かざらんや。當時名媛雲の如く多かる中にも、紫式部、清少納言、赤染衛門、和泉式部、馬内侍、伊勢大輔、小式部内侍、これ等の女流こそは、歌に、文に、互にその才を競ひ、かたみにその艶を戰はしたる人々なれ、されば後世この人々を稱へて梨壺の七歌仙などもいひけんかし。

紫式部は源氏物語の作者として、清少納言は枕草紙の作者として、赤染衛門は榮花物語の作者として、和泉式部は『遙にてらせ』の歌に於いて、又一代のすきものとして、伊勢大輔は『今日九重に』の歌に於いて、小式部内侍は『大江山』の歌に於いて、各々當時その名を馳せ、後世その才を稱せらるゝが中に、ひとり馬内侍のみは、當時にありて才媛の名歌人の譽れ、敢て紫式部清少納言以下の女流に劣れりしとも覺えざるに、その名後代に揚らず、その譽今の世におぼろげなるは、いと幸なき人といふべく、はた惜むべきならずや。いでや今年は午の年、その意といふにちなみて、こゝにいさゝか内侍の傳をかい記さん。

内侍は右馬頭(尊卑分脈には正四位左馬權頭とあり、又勅撰作者部類には大和守と注せり)源時明の女なり。蓋し馬内侍の名は、右馬頭なる人の女にして内侍たるによる。一條天皇の中宮藤原彰子(道長の女、即ち上東門院)に仕へて、掌侍たりし人なり。故に亦中宮内侍ともいへり。(拾遺和歌集に中宮内侍馬としてその人の歌を載せたり)當時椒房には皇后と中宮とありて、互にその貴幸を爭ふをりなりしかば、道長多く名媛を撰びて、中宮に侍せしむ。蓋し侍女の良否才不才は、大に勢力の消長に關すればなり。即ち皇后方には清少納言以下才媛多く之に侍し、中宮方には紫式部、赤染衛門、伊勢大輔等之に屬せり。馬内侍亦當時の才媛として、中宮方に撰ばれたる一人なりき。内侍の家系は左の如し。

文德天皇—能有賜姓源朝臣—當季—仲舒—時明—馬内侍

内侍の始めて宮仕に出でたるはいつなりしかは明ならざれども、花山天皇の御即位の日に(永觀二年十月十日)褰帳命婦として進參せること古事談に見えたれば、中宮彰子に仕へざる以前より、既に女官たりしこと明なり。又内侍の年齡の如きは物に書きしるせるがなければ、今たしかに知る由なけれど、その大よそを推して云はゞ、永觀二年、即ち花山天皇御即位の時に、褰帳命婦として頗る人の心を

引く容色なりし如く記せる古事談の記事と、道長が未だ兵衛佐たりし時(公卿補任に據れば道長の右兵衛佐に任ぜられしは永觀二年にして、寬和二年に左近衛少將に轉ぜり)内侍と艶歌を贈答せしこと内侍の家集及び後拾遺集、新古今集等に見えたると、當時道長の年齡二十歲前後なりしと(公卿補任の寬和三年の所に道長の年を二十二と注せり)によりて見るときは、内侍の年齡も當時亦二十前後乃至三十迄の間にありしものとぞ思はるゝ、さらば中宮彰子が入内せし長保元年には内侍既に三十五六乃至四十以上の人なりしものゝ如し。さて内侍の容色に付いては、これ又たしかに記せるがなければ、道長を始め、中關白道隆、左大將朝光、大納言公任の如き當時第一流の貴公子、爭うて内侍と歌を贈答せしより察すれば、その容の艶は、その才の敏と相俟つて、頗る尋常ならざりしを想はずばあらず。なほ古人は未だいはぬことにて、余も正しくそれとはえ斷言せざれども、紫式部日記に宮の内侍と見えたるは、これ馬内侍のことにあらじかとぞ思はるゝ。かの日記に宮といへるは皆中宮のことにて、即ち當時中宮の内侍といはゞ、この馬内侍をおきて他にそれと當るべき人なく、且つ拾遺和歌集に正しく中宮内侍馬と書けるに考へ合せても、宮の内侍とは馬内侍のことをいへるものとこそ思はるれ。果して然らば馬の内侍の容貌才色を想見するに頗るたよりよきものこそあれ。即ち紫式部日記に宮の内侍を評して、

宮の内侍ぞ、又いと淸げなる人、長立いとよき程なるが、ゐたるさま、すがたつき、いともの〳〵しく、今めいたるやうだいにて、こまかにとりたてゝかかしげとも見えぬものから、いと物淸げにうひうひしく中高き顏して、色のあはひ白きなど、人にすぐれたり。かしらつき、髮ざし、額つきなどぞ、あなものの淸げと見えて、はなやかに愛敬づきたる、たゞありにもてなして、心ざまなどもめやすく、露ばかりいつかたさまにもうしろめたいかたなく、すべてさこそあらめと、人のためしにしつべき人がらなり、えんがりよしめく方はなし。

と見えたり。こは試に余の愚考を記せるのみ、當れりや當らずや。その容色いかんは暫くおき、先づ第一に記るすべきは、歌人としての内侍の位置なり。八雲御抄に曰く、

古今以往は萬葉集作者おほけれど家持人丸赤人などを棟梁とせり。其後野相公在納言など此道にたへたる卿相也。そのほか、遍昭、素性、小町、伊勢、業平、貫之、躬恒、忠岑、まことに此みちの聖なり。……梨壺の五人めでたしといへどもかの古今の四人の撰者におよぶべからず。……その後兼盛重之好忠など、昔のあとをつぎてことなる歌よみ也。かのともからが後は、たゞ公任卿一人天下無雙万人是におもむく。……女歌には、赤染衛門、紫式部、相模、上古にはぢぬ歌人也。其外も道綱母、馬内侍やうの歌人おほく侍しも皆うせ侍にしのちは天下の歌人なきがごとし。

以て内侍が女流歌人としての位置を見るべし。又中古歌仙三十六人の中にも馬内侍の名あり、其他二中歷なる女房歌人二十七人の中にも、女房三十六人歌仙といふものにも、共に内侍の名を載せて、紫式部、清少納言、赤染衛門等とその名を等うせるを見ても、内侍が平安朝の女流歌人としては、たしかに第一流の人なることを知るべし。

本朝女鑑には、梨壺五歌仙とて、清少納言以下馬内侍迄の名を數へたれど、こは悅目抄に(此五人の女房は天曆の御時、梨壺の五人の歌仙の中に、淸原元輔のむすめに淸少納言云々)とある文を讀誤り、五人の歌仙云々は清少納言の父なる淸原元輔にかゝる文意なることを知らずして、悅目抄の記事をいさゝか加減して書けるものなれば言ふに足らず。しかるに後世の書、多くこの本朝女鑑の誤を承けて、淸少納言以下の女流を擧げて、梨壺五歌仙など稱するは心得ぬことなり。

さて内侍の歌にして代々の勅撰集に入りしは、拾遺集に四首、後拾遺集に十三首、千載集に三首、新古今集に七首、續後撰集に一首、續古今集に二首、玉葉集、續千載集、續後拾遺集、風雅集、新千載集に各々一首、新拾遺集に二首、新後拾遺集に一首、凡て三十八首なり。今、家集(馬内侍集とて一卷あり、群書類從和歌部に收む)の中より内侍の詠口を窺ひ得べき歌數首を掲げて、この稿を結ばん。

齋院より卯杖をたまへれば
なげきとてほとゝ思ふ斧の音は祝の杖を切にぞ有ける

いものはに露のとまれるを
つれ無て芋が下葉は置露はいかに止れる物とかはしる

つれ〳〵なりし日、人のふみおこせるに
春日野に誰かまつとは告つらん今日の子日に鶯のなく

鞍馬に參りたるは、鳥居のもとに櫻いと盛なるを
見すべき人もがなと思ふにもあかれば
都にもなべてはいはじ櫻ばな誰に匂をまつかたらまし

瀧をおとせばいろ〳〵の花うきたり
山高み亂れて落つる瀧の糸はあや定まらぬ錦なりけり

つゝじ椿のはなさきたる所にて
鞍馬山覺束なしと人とはゞ名にはたかへる道と答へむ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

童話

桃太郎物語

此書は寶暦三癸丙正月の版にして、從來世上に現はれたる桃太郎物語とは少しく趣きを異にして、首尾全く、彼のうつぼ竹とりなどの古雅はなけれど、面白きまゝ未だ見ぬ人の爲めにもと玆に物語中の一節、桃太郎の誕生までを掲ぐることとなしぬ

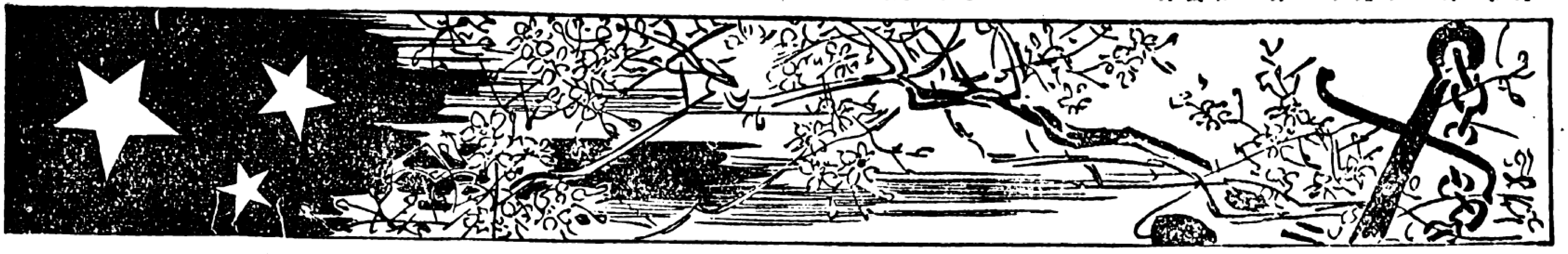
昔し〳〵美濃の國本巣郡の山里に、爺と嫗とありけるが、この爺は由緒ある人なりしに、何時しか民間に下りけり、爺は七十嫗は六十に餘れども、跡をもとふべき一子もなく、夫婦貧しく暮らせしが、或時爺は山へ柴刈りに、嫗は谷川へ洗濯に行き侍るに、老の身の疲勞れ稍や空腹にもなりければ、如何せんと思ふ所に、水上より大きなる桃一つ流れ寄る、幸ひなりと聽て取りて食ひ侍るに、その味ひ何にか譬ふべき、爺にもまゐらせんと思ひ、桃の半分を懷中し、流れ行く水を少し掬びて呑みけるに、俄かに六十の姿ひきかへて、二八あまりの形となりけるは、いと不思議なりける事なり、されどもその身は夢にも知らず、急ぎ我家に歸り、爺の歸りを待ち居けるに、軈て山より歸りける、先づ薪を門に卸し、家内に入らんと見る所に、若き女性一人、衣服は嫗に似て竈の前に居たるを見て、暫しものをも云はざりしに、嫗は歸り給ふかや、今日はいつより遲きゆゑ、最前より案じ居たるなり、先づ足を洗ひ給へと云ふ、爺はいよ〳〵訝しく、我は山へ、嫗は川へ行きけるに、あるじもなき留守の家へ案内もなしに來りて、こと馴れ〳〵しき挨拶、此あたりにも更に見覺へなければ、いかさま仔細もあるべきと思ひ、そも先づ如何なるものぞと、詞あらげに尋ねける、嫗は何んの辨へなく、爺は老にほれ給ふかや、此程のなが雨に、久々山へも出てずして、けふ日あたりを驅け廻り、老の目のかすみたる故、妾をも見違へ給ふならん、妾は此方の妻なるぞ、何とて斯くはの給ふぞ、事新らしき云ひごとゝて、から〳〵と笑ひける、爺はこの由聞くよりも、いかさま汝は氣違ひか、又は變化の所爲ならん、我留守を覘い、妻をなきものにし、その形に變じて我をたぶらかし我をもなきものにせん爲めならんと、奥に入りて鎖たる脇差取り出し、横たへて犇めきける、嫗は大きに膽を消し、爺その年になり給ひ、餘所に馴染を拵らへて、妾が老に厭き果て、斯かる寃罪を云ひかけて、たばかり出さん謀計なるべし、年にこそあれ人による、御身二十の春より、妾は十五のその時より、斯かる年月添ひなれけるに、たゞ一言の不足も聞かざりしを、今更ら斯かる憂目にあはせ給ふ事、氣ばし違ひ給ふかと、涙に暮れて云ひければ、爺はいよ〳〵腹を立ち、今民間に下れども、我も昔は山陰祐太夫重春とて、よしあるものゝ流れなり、汝ごときのもの共にたぶらかされんやうなし、兎角變化のものならん、まことの姿あらはせよ、さなくば唯今打ち捨てんと、責めつけ〳〵罵りて、餘りに互ひの聲高く近所の人々立寄り此有樣を見けるに、若き女性を取つて押さへ、祐太夫脇差かまへ、詞あらげに云ひ居たる、所の人々呆れ果て、老耄爺の如何にして、斯かる大膽仕出せしと思ひ、祐太夫樣かみ機をお留守さうな、若き女性を連れ來り、斯かる有樣何事ぞと、さらぬ體にて尋ねける、祐太夫右の樣子をくはしく語りけるに、嫗は更に氣も附かず、里人に打向ひ、祐太夫が仕方をうらみ喞ちける、面影と云ひものごしは、嫗に少しも違はねども、二八姿心得ず、いかさま仔細もあるべきと、あたりより鏡一面取出し、これ見給へと與へければ、嫗は手に取り倩々見て、こは如何ぞや、六十に餘るこの嫗が姿二八に見ゆること、心得ぬ事ぞかし、爺が不審仕給ふも道理なり、これは如何なる事ぞとて、呆れ果てゝぞ居たりける、さればこそ其事よ、おことはいよ〳〵嫗樣に違ひはないか、如何にして斯くは姿の變りたるぞ、理由を包まず語り給へと云ふ、嫗は實に思ひ出したり、今日爺のその留守に、谷川へ出て、此程のなが雨に、疊み置きたるつゞれの物洗濯せんとせしに、水上より桃一ッ流れ來れり、拾ひ取りて一口食ひしその味、甘露も斯くと思ふ故、半分を懷中し、水を掬びて呑みけるに、心も淸く疲勞もなく、老を忘るゝ許りなりしが、斯かる故にもやありけんと語れば、里人不審晴れやらず、急ぎその桃を祐太夫樣にまゐらせよと、とり〳〵に云ひければ、件の桃を取り出し爺に與へける、祐太夫も怖々手に取りて食ひければ、忽ち七十餘りの翁二十許りの姿に變じけるは、實に不思議なることなりけり、里人奇異の思ひをなし、皆々わが家に歸りけるが、其後この事聞き傳へ云ひ觸ふして、祐太夫を敬ふこと限りなし、人々數の寶を與へて、貧しく送くる年月、いつしか有德の人となりける、夫婦は昔の契り淺からぬを、また重ねたる鴛鴦のふすま、思ひもよらぬ悅び、誰かは羨まざらん、はや、懷姙と聞へければ、昔に引かへたる產所の用意、とりあげ婆も誰々を賴むなど云ひもて騷ぐ程もなく、玉のやうなる男子をぞ擧けける、されば彼の桃を食ひて若やぎ擧けし子なればとて、桃太郎とぞ名づけぬ。

謹賀新年

略儀ながら紙上を以て年頭の祝詞に代え別に賀狀を呈せず御諒恕被下度候

元旦　奥村五百子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



◎馬と豚の走りっこ

衆議院議員　江原素六

西洋の或町に大層な金持がありました、其金持は何でも自分の持物を人に示して誇る癖がありました、近頃買入れた馬がありますが、此馬は名馬であつて驍足であることを、誰彼となくに誇つて居りました。

處が其處に百性が居つて、お前の處の馬は私の處の豚よりは遲いと申しました、其處で金持は大層立腹して、それでは馬と豚との競爭をやらう、豚が勝つたら己の方から五百金を與へやう、其代り馬が勝つたらお前の所の牝牛を貰ふ、場所は海岸から二哩として、今から直ちに始めやうと申しました。

處で百姓が申すには、宜ろしい、其懸賞と其方法とは承諾したが、今から直ちにと云ふことは出來ない、今日から十日間後の何時に行はうと云ふので約束を定めて百姓は家に歸りました。

歸ると直ちに納屋から豚を引出しまして決勝點の二哩先に豚の好物を澤山に置き、豚を追ふて往きました、最初の歩は遲々として居りましたが、翌日も其翌日も行ふた後には全速力を出して目的地に到達するやうになりました。

扨て十日目になると近所の人々が聞傳へて申すには、今日は金持の馬と百性の豚との競爭があるさうである、近頃の見物であると多數詰め掛けました。

愈々時間が來て馬と豚とを放ちました、馬には人が乘つて鞭打つて往くのであります、始めの程は馬が早くありましたが、豚も一生懸命によき食物を得はれては大變であると思つて全速力で走り、遂に豚の方が勝ちました、そこで百姓は五百金の懸賞を萬人還視の中で得ました、それから後は金持も物事に自慢をせぬやうに爲つたとのことであります。

是れは馬の負けた話してありますが、馬程世の中に役立つものはありません、然るに日本人は馬を使用すること支那人に劣つて居ります、滿洲は人口八百万人で五万町の畑を耕して居りますが、日本は五千万の人口で僅かに六百万町歩の田畑しか作つて居りません、是れは馬を能く使ふと否との差であります。

西洋人が人を傭ふに、馬を取扱つて居つたことがあると云へば、愛情の深き温順な人として給金も高く拂ふが、日本では馬喰なぞと云ふたらば誰も傭入れるものが無いと云ふ程で、一般に日本人は動物に對する愛憐の情が薄いやうに思はれます。

◎戰後新年

理事　前公爵夫人　近衞貞子

年は今日あらたまれともをさなこの
いくさあそびはかはらさりけり

初まうてまつやすくにのみやしろに
さするみおやのこゝろをそおもふ

評議員　侯爵夫人　佐竹祚子

仇なみもとくをさまりて立かへる
としのはつ日も長閑なりけり

評議員　伯爵夫人　阿部篤子

たゝかひにかちてむかふる新玉の
としのたのみもたゆけかるらん

評議員伯爵世嗣夫人　大谷章子

草に置く露はあさひに消えはてゝ
さしものとかにかへる年かな

評議員　子爵夫人　本多延枝子

あたらしきとしのまとひもにきはしく
祝いまつらんものゝふのやと

砲の音もうちしつまりてあたらしき
御代を壽ふくけさのめてたさ

評議員　中山幸子

あたをみならうちたひらけてあらたまの
としのはつ日はかゝやきにけり

評議員　下田歌子

四方にあけし國のひかりをあらたまの
年とゝもにもみかきそへはや

◎馬のはなし

獸醫　入江濤吉

◉馬と人の性質　初對面の人を訪問する際に其人の性質を知らんとするには、先づ厩に入つて馬を見れば直ちに知る事が出來ると云ふ程に馬は從順なる動物であつて、飼ふ人の性質に依つて如何樣にもなるものであります、西洋人は日本の馬程捷なものはないと云ふて居ります

◉馬の勤勞　馬程よく正直に働くものは少うあります、倒れて後止むと云ふ事は馬によつて始めて實行される言葉であります、九段坂の下あたりでよく倒れますが、其倒れた時には愈々根氣も力も盡きた時で、倒れる迄は働いて居りなす

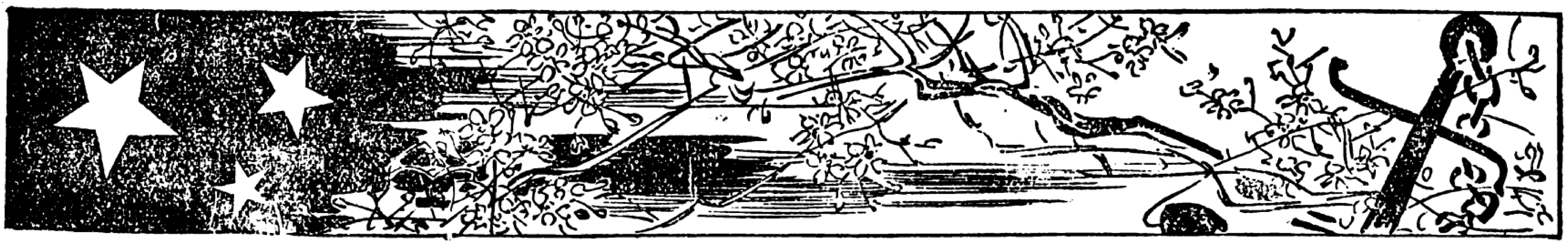
◉太物に匹の字を用ゆ　太物の長さに何匹と云ふ事を云ひますが、動物でもないに匹の字を用ゐるのは甚だ不思議と思ふて調べて見ますと、馬が夜る視力の達く長さを云ふのであるそうです

◉馬の骨相學　耳の長いのは餘り好みません、能く聞き過ぎて物事に驚ろき易く、臆病であります、鼻の太いのは肺が強く、口の大きいのは胃が丈夫であります、蹠を足は骨が四十五度の角度になつて居らなくてはいけませぬ

◉馬の尾　總て動物が力を示すのは尾であります、獅々が其尾を以て他の動物を打つ時は、動物の骨が碎けると云ふ程力の強いものであります、犬でも尾を立てゝ鬪爭するのは強うあります、馬でも尾に力がある馬は必ず強うあります

非常に幸福ならんが爲めには富裕となり若くは著名とならざるべからずと斷ずる勿れ

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



◎毛利吉就夫人

下田歌子

毛利侍從吉就の夫人は、酒井遠江守忠隆の女なり。夫人、毛利家に嫁きて幾程もなく、夫吉就みまかられければ、麻布の別邸に掻き籠りて靜かに世を送られけり。夫人は、夫と永別の折、直ちに、剃髮して佛門にも入らまほしく思はれけれども、さては、人々の、餘りに年若なるをいと惜みて、かに斯くと諫め止めもぞせんとて、敢て色にも顯さず。たゞ、亡夫の忌日々々に少しづゝ髮を鋏みて、遂に全く切りそがれたりき。

一日、近隣に火災起りて、此のあたりも見る／＼烟につゝまれぬ。此別邸は、殊に風下なりければ、人々驚き惚てゝ、夫人にも、とく立ち退きあらんことを勸め申しけるに、夫人答へて「いなとよ、火は近かりとも、まだ燃え移りしにあらず、我が邸は、空地も廣ければ其處に、火を避けて十分なるべし。邸内の者は、先づ老幼婦人を先にして、彼處に立ち退くべし。又、我が所有の調度を、土藏に搬び入れんとて、騷動すべからず。尼は、世を背きたる身なり。今よりは、何一つ無くても、事足りなん。汝等は、猶仕官の身なり。調度は、いづれも、奉公の爲に必要の物なり、燒き失ふべからず。少しも早く、先づ汝等の所有品より取り片づくべし。斯くて、屈強の者は、火がゝりへ廻りて、延燒を防ぐべし」とありければ、あり合ふ者ども、皆此の理あり情ある訓言に勵まされ、ひとしく力を戮せて火を防ぎければ、火は幸に此邸にして止まり館もまた恙無きを得たり。

夫人は、貞節にしてしかも沈着深慮の人なり。年少にして寡婦となり、能く貞操を守れるのみならず、又能く非常の時に際して、其言行能く道にかなへり。誠に、貴夫人の品格を備へたる貞淑の女性といふべし。

短文披露

題「平和」

▲永久の光　東京　浦月子

平和は復りぬ、平和を謳ふ聲は八島の外にも溢れ、長しなへにゆらぎなき御代ののどけさを祝はぬ際こそなかりけれ、凡事の緩急によりて人の心の覺悟に顯はるゝなり、世の進むに隨ひ益ゝ國際の繁くなり行くはさる物にて、各ゝ威信を保たん爲め、將利權の爭ひの爲。遂に亂麻の戰場を造り、人命をも犧牲と成すのやむなきに至ろ、嗟いつの世か世界に平和の望まるべき、只人の心の平和こそ世にあらまほしき限りなれ、常に個人の平和を忘れずは、戰時に在りて平時に在りて、いつの時か平和ならざらん、悦ばしき平和克復の新年、われらは此の新年の光と共に、平和の光の永久に消えざらんことを力めざるべからず。

▲勳なき世　群馬　伏島たき子

日露の戰おさまりて、平和のみよとなり、こゝに嬉しうも新らしき年をむかへ、みどり深き門の松竹にもたてかはしたるみはたの光にも、ゆるぎなき大御世の千代の御榮いとしるく、實に嬉しきは平和の御代、のどけきは今日の心よ、さはれ又こゝにあやぶまる事こそあれ、そは他ならず、かく目のあたり嬉しき事にのみなれなば、さらぬだに才にぶく、業足らぬおのが身の、ともすればおこたる心のいでもやせんかと。

▲幸多き年　埼玉　森田竹子

三年前、大晦の夜、突然動員令下りていとしき背の君は只ならぬ身の妾を殘し、我國の爲め勇みて家を出で立たせ給へり、孤里の彼方戰場に臨みて敵と戰ふこと四度に及べど、些の傷も負はずとの御便得しは昨日の如く思へりしに、過ぐれば早き月日經て去年庭の落葉に霜置き初めし頃、またなき譽れ荷ひて凱旋し給ひつ、今日功高き夫と愛子和彌をあやしつゝ屠蘇汲むことの嬉しさよ、思へばきのふ悲しと泣きし涙はいづちいにけむ、只嬉しさの胸に溢ちて、怪しき迄に打笑まるゝよ、斯く幸多き年を迎へつるも偏に平和なりし故と、限りなう悦ばれてなむ。

▲月光燈火　東京　濱田直子

夕榮の空最美しう、見渡す限り野も山も里も一面に眩い錦陽を受けて、今を盛りの稻は垂穗重く打傾く迄豐に實り、眩き夕日を受て黄に輝き、共に揺れる葉のさら／＼と秋の歡喜を囁き、小川の流れは床しう永久に秘事を傳へ、四邊の山々紫淡き夕靄に籠はれ、呼徑遙に、牛飼童、稻刈乙女の打連れて家路に急ぐ程もなく、山の端越しに出づる月影、木間を洩るゝ里の燈火、今宵團欒の食卓の上、如何に樂しいことであらうか、嗟豐な秋、美しい夕暮、共に平和な賑い眺である。

▲千里同風　大阪　宮永才子

立ちさわぎたる仇浪も、匂ふ朝日のはた風にあとなおさめて、四方の海しづかなる代となりしこそいとも嬉しき限りなれ、九重の都はいはずもがな、賤が柴刈る深山より、あまが鹽やく浦々まで、あまねく平和の風はふきわたり、千代を契る松が枝の、常盤の色のかはりなき、めでたき春を祝はなむ。

新詩披露

題「曙光」

▲御代の榮　東京　浦月子

紫たちし薄雲の
　たなびく峯にほの／＼と
今かこゆらんあらたまの
　年の初日のあからかに
光さしそふ空高く
　御代の榮も見ゆるあけぼの

▲博愛慈善　群馬　伏島たき子

博愛慈善の誠志もて
　世のため盡すをみな子の
みちいと廣しはろかなり
　はてしもわかぬ大空に
今しかゞやくこの曙光
　しるべせよかし手をとりて

▲御代の光　鳥取　近藤靜子

天つ宮居の欄干の
　流くれなゐにいろどれる
霞の帳ひらかれて
　初日の影のうらゝかに
八聲の鳥のこゝかしこ
　御代の光りをうたふめり

▲世界のしんぶん▼

○ローマ法王宮　ヴアチカンの部屋の數は一萬一千より少からずして、其内年中日光を受けざるもの多しといふ

○駝鳥飼養　はオースタラリヤに於て有利の事業となれり此鳥は大凡二尺二寸五分位の美麗なる羽根を生ずるものなるが、一羽につき年々貳百拾圓位の利益あり、全洲にて始めての駝鳥はアフリカより來れるなりといふ

○露國の罪人　は奇妙なる方法にて取調べらるゝなり其法先罪人に一種の藥を食物と共に食せしむる時は其人狂氣となり又多辯となる此時質問により又は其言動によりて罪惡を白狀せしむるなり

○小學校生徒　は白耳義ブリユクセル市にては十日に一度づゝ醫者に目歯耳及其他を檢査せらるゝなり萬一身體薄弱なる樣見ゆる時は醫者は是に肝油又は其他適當なる強壯劑を與ふるなり中央には市の慈善金及市の積立金によりて食事を與へられて兒童はいづれも衣服の足らざるもの又は飢へたるもののなしといふかゝる小學校生徒は幸なるかな

○最奇妙なる家　北米合衆國ダコタ州カルツン市の東方六十哩位の處にてリオヴイスタといふ村に出來たり、此家は一人の鑛夫住み居り全體はビール瓶にて作られ高さ二丈幅一丈六尺ありて内に二室あり此家を作るが爲めに一万本の瓶用ひられ、口の方上になりて其隙間は泥にて固められたり、壁の四隅は木の柱ありて其他は全く瓶のみにて作られありといふ

○探險家　は北極點より二百三十八哩距りたる處まで探險したるも南極の方は極點より七百七十二哩距りたる處まで探險したるのみなりといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

コクカツーショール

特約販賣店

大阪市東區瓦町四丁目
服部富三郎
特電話東七〇二

大阪市東區淡路町四丁目
吉阪元次郎
特電話東一三六二

本品は天鵝織地裏製にして最も優美高尚の品に有之候
本品は丸形。平形(鶴オシドリ)羽根付の三種有之候
本品には一々如上圖商標を付し候間御買取の節は御注意被遊度候

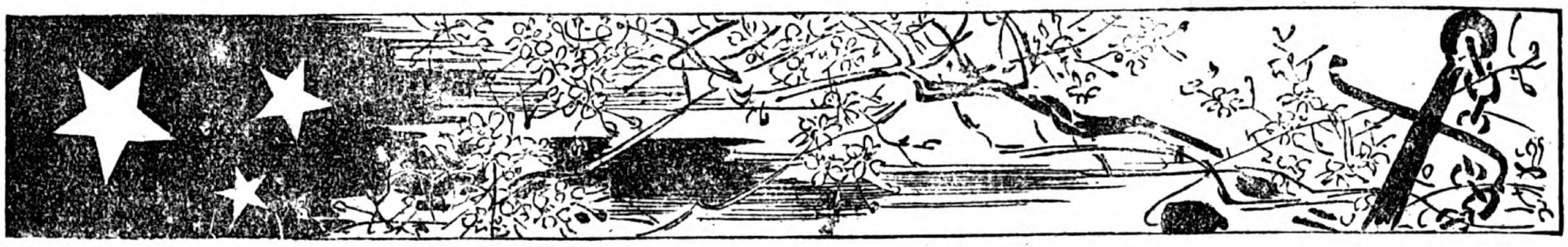
本品は全國到る處洋毛織物店。西洋雜貨店。洋小間物店等總てショール(肩掛)類を取扱居候店には陳列致し有之候間御最寄にて御高覽の榮を賜り度候

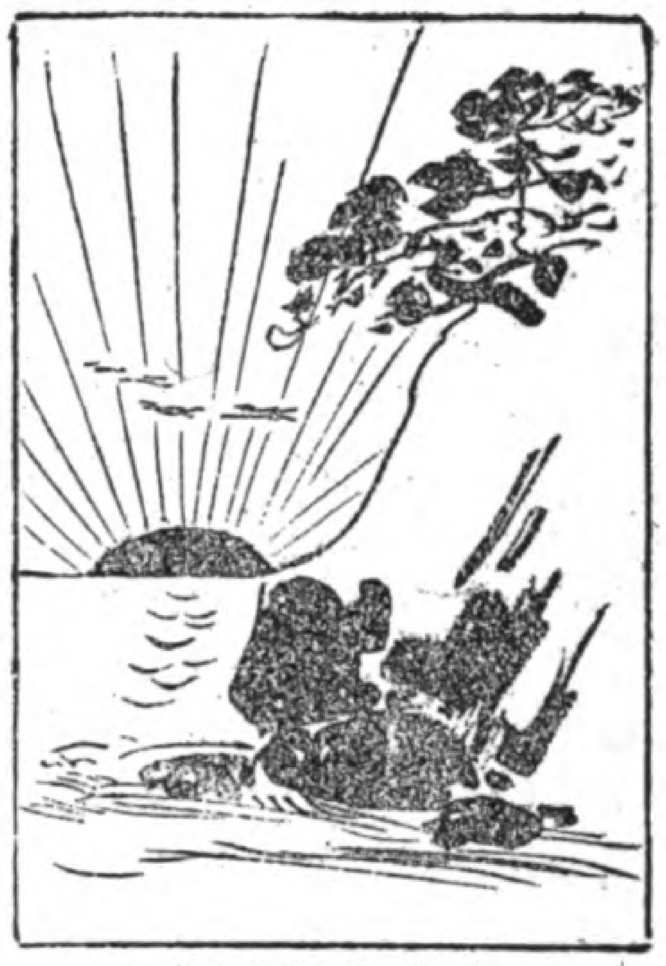
東京市日本橋區本町二丁目
中喜ネル店
特電話本局七五〇

大阪市東區心齋橋筋安土町四丁目
中喜支店
特電話東一七九〇

東京製絨株式會社
日本フラネル製造株式會社
島田毛織物製造所
品川毛織株式會社
製品特約販賣店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





作歌披露

吾が『愛國婦人』紙上に歌壇を設けてより以來こゝに十七回、即ち八ケ月餘、未だ一年に滿たざるに今回の應募者は實に**三百八十餘人**の多きに達しぬ、思ふにこれ本歌壇の年改まると共にます〳〵隆昌を致すの前兆たらずんばあらず、選者たる**公爵夫人**は今回の如き徹宵其採華選英に盡されぬ、吾等は選者並に投稿諸姉の熱心なる勞を謝すると共に、次回は今回に勝る更らに數層ならんことを希望す

題「初日影」

くもりなきとしの初日のみかゝみに
　まつかゝやきぬ國のひかりは　北海道　西　久子

○大君のみいつとゝもにさしのほる
　としの初日のかけの長閑けき　京都　渡邊豐子

○四方の海なみもしつかにをさまりて
　いつる初日のかけの長閑けさ　山形　阿部さゐ子

○四方の海なみもしつかにをさまれるみよの初日のかけそ長閑けき　函館　河崎とみ子

○さしのほるとしの初日をあふくこそまつうれしさのはしめなりけれ　岡山　下村文子

○あらたまのとしたつけさの初日影たゝなむとなくうれしかりけり　東京　小島幹子

○ものゝふの道もさかえてたちかへるとしの初日の影そまはゆき　東京　浦　月子

○あふき見ぬ人やなからん大八島そらにかゝやくとしの初日を　大阪　富永才子

○をさまれるみよの光をのとかにものほる初日のかけに見る哉　函館　神尾とめ子

○うら〳〵とのほる初日に見ゆるかなみよゆたかなる年の光は　東京　岡田春子

○ほの〳〵とのほる初日のかけにさへゆたけきとしの見えにける哉　茨城　綿引馨子

○のとかにもとしたつけさの初日影くもらぬ御代の光なるらん　東京　戸塚鐵子

○戰の雲もあとなくをさまりてとしの初日そ四方にかゝやく　東京　川村高子

○あたなみはしつまりはてゝ四方の海
　光かゝやく初日影かな　三重　諸戸常子

○初日かけいつもかはらぬものなるを
　ことしそさらにのとけかりける　大阪　佐野眞子

○大君のみいつもしるしあらたまの
　としの初日のかけのゆたけき　埼玉　森田竹子

○ことさへくからくに人も仰くらん
　とよさかのほる年の初日を　富山　奧田むつ子

○はつ日かけにほひそめたるふしの根や
　さかゆくみよのしるしなるらん　岡山　廣畑章子

○とつくにの人もあふかん日の本の
　としたつけさのもとつ光を　東京　長鹽錠子

○あらたまの年たちかへる朝ほらけ
　むかふ日影のうらゝなるかな　愛知　山田經子

○いやたかく仰かれにけり初日かけ
　をさまるみよの年のはしめに　石川　新田暉子

○あらたまる年のはしめに初日かけ
　まつ仰きつゝとしほきにけり　長崎　本田須次子

○はつ日影にほへるまとにふたつみつ
　梅の花ゑみうつる嬉しさ　愛知　平松いと子

○あらたまのとしたつけさの朝日影
　四のくにまて光かゝやく　熊本　稻垣多賀子

○かちときの聲なこりに年たちて
　はつ日にみよのいやさかゆらん　東京　五藤敏子

○ほの〳〵と初日かけさす海はらに
　飾りしふねのいかりまく見ゆ　東京　吉野きよ子

○なみもなき年のはしめの海はらに
　てる日の影そのとけかりける　靜岡　竹内幸子

○あふきみてかしこきものは山のはに
　のほる初日の影にそありける　函館　内山いく子

○ちよとよふすゝめよりとくおき出て
　としの初日をまつあしたかな　群馬　伏島たき子

○海原をのほる初日のかゝやきて
　うらのとまやも賑はひにけり　岩手　和井内芳子

○しめかさるのきはまはゆき初日影
　のとけきみよのさまそ見えける　愛知　山田靜子

○大内の山にまはゆき初日かけ
　さかえゆくよの光とそ見ゆ　岡山　谷　とめ子

○さしのほる大内山の初日かけ
　あふくみよこそうれしかりけれ　鳥取　近藤靜子

○ゆたかなる年のきぬらしほの〳〵と
　あけゆく空のいとゝのとけき　神奈川　小田松子

○東の海のなみ風しつまりて
　のほる初日のかけの長閑けさ　東京　河邊和歌子

○たちのほるはつ日とゝもにかゝやくは
　日本武夫のほまれなりけり　福岡　村島常子

○はつ日影かゝやきそむるひんかしの
　みそらのけしきあらたまりぬる　東京　濱田直子

○一夜にてものことかはるあらたまの
　けさの日影の長閑なる哉　靜岡　新間きわ子

○あらたまのとしたちかへる大空に
　まはゆきまての初日影かな　長野　金野梅乃

○うき雲はふきはらはれし不二のねの
　雪にかゝやく初日子の影　山梨　小尾たま代子

○あらたまの年たちかへる初日影
　のとけきみよの光そふらん　東京　五十嵐清子

○初日影あふくみそらに雲もなし
　のとけきみよのしるしなるらん　福島　太宰よし子

○さしのほる初日あふけはあら玉の
　としたつかけもおのほゆるかな　函館　山本せい子

▲選外

いくさ勝ちし國の光に似たるかな
　年たつそらにのほる初日は　北海道　西　節子（十）

第十九回作歌募集

題　觀梅
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
期限　一月二十五日限り
優等の作歌は本紙上にて披露す可し

第十二回短文募集

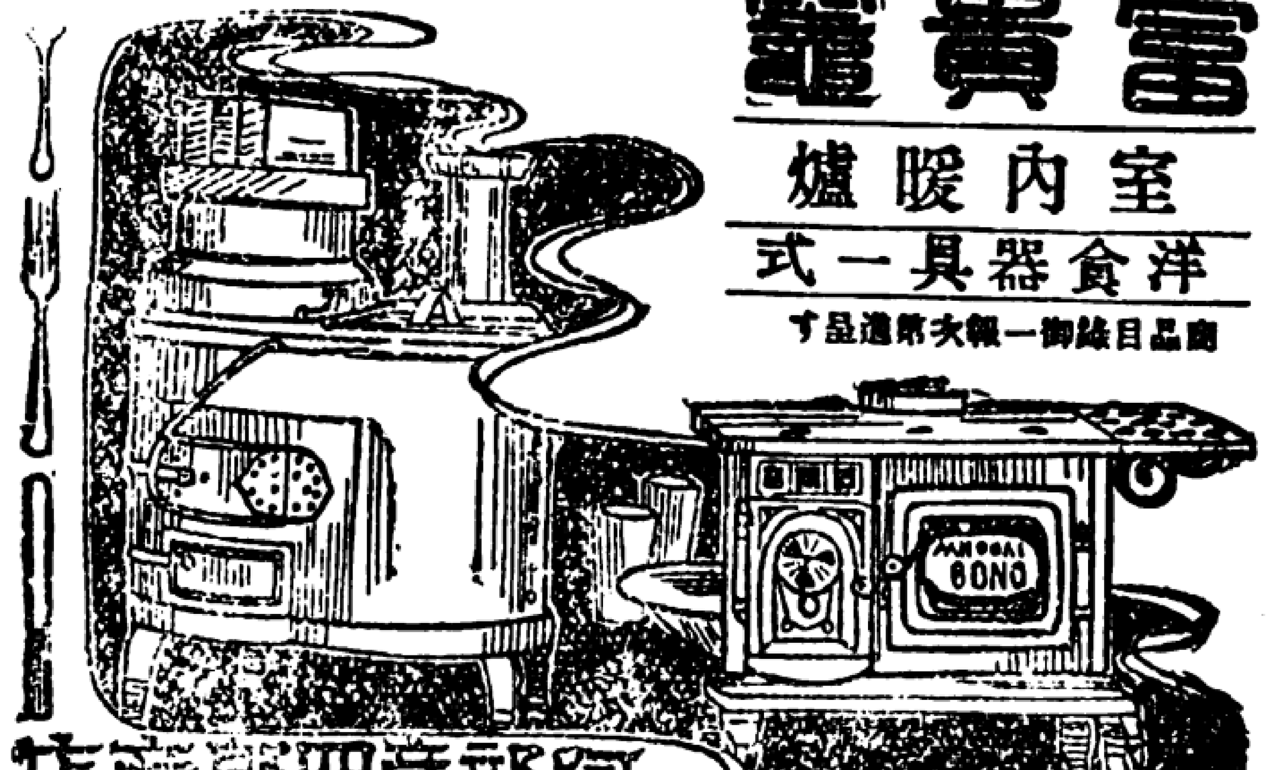
題　最も愛讀する書（に對する感想）
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
期限　一月二十五日限り
優等の作は本紙上に披露す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

スコット乳菓

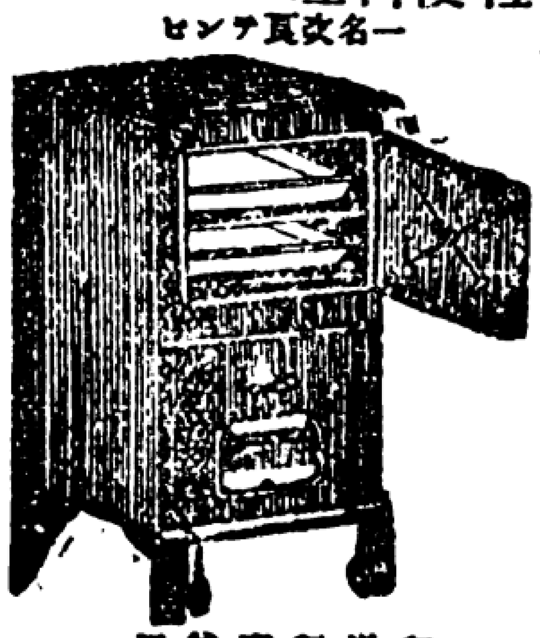
咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ著大ノ效驗アリ早ク試賜ヘ

說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部ヘ御申込アレバ代價ナシニ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會



富貴羅
室内暖爐
洋食器具一式
商品目錄御一報次第進呈す

特許 輕便料理ストーブ
一名改良テンピ



和洋割烹兼用
輕便にて完全に調理ストーブの効用を爲す、和料理に用ひず極便利にして頗る妙なり
定價小四圓六拾錢　大六圓

阿部彥四郎商店
淺草茅町淺草橋際　電話下谷一九二三番

增補訂正
實驗上の育兒　上卷

東京小兒科院長 醫學博士 瀨川昌耆先生著
報知新聞家庭記者 天野誠齋先生編

七人の愛兒を他人の手を借らず自身御夫婦にて恙なく育て上げられた實地經驗家の瀨川醫學博士が丁寧親切に説明せられました育兒談は即ち此本です吾兒の健全なる發育を望まるゝ父なり母なる人に是非共御一讀あられん事を御勸め申します其目次は

初生兒時代●分娩と初生兒健康診斷●初生兒健康の特徴●産湯と熱浴●生兒の産衣●襁褓とおかわの扱方●初生兒の寢床●母子同衾の利害●大小便●未久利と新乳●健康なる生兒の兩便●乳の飲ませ方●授乳の分量●授乳の時間●授乳分量の標準●授乳の回數●臍の瘡浴にしろした●後の入浴と臍帶●臍突●月不足兒の育て方●生育の抱き方●抱いて搖る害●背中をたゝく害●綾掛に背負ふ害●胎髪を剃る事とお灸●黃疸●哺乳兒時代●健康兒の標準●生齒と病氣●睡眠●智慧付き●視線の固定●聽覺●發語●精神の發育を害す●哺乳兒の大小便●哺乳兒の營養法●産婦の食物と乳汁●鯉汁●母乳の分泌●母乳を飲ませて惡い病氣●恐るべき哺乳兒脚氣●母乳の檢査●代乳と養育●人工營養と死亡●乳母の撰定●乳母の養生●牛乳と保育●牛乳代用の誤解●乳の消化の時間●哺乳兒の食物●小兒の食べ物●斷乳●乳斷後の方法●牛乳養育●牛乳の薄め方●牛乳と體質●牛乳の取扱方●鍋で沸した牛乳●牛乳の沸し方●牛乳消毒器●牛乳消毒と清潔法●牛乳保育の誤解●煉乳●煉乳保育●食物の拵へ方其他

定價六十錢
郵稅十錢
下卷近刊

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麴町區有樂町 報知社出版部

雜報

◎獨帝御贈進の馬　獨國皇帝ウヰルヘルム陛下より我が天皇陛下に遙々御使者を附して御贈進相成たる駿馬六頭は去月十六日午前十一時過新橋着汽車にて到着し使者附伴永田町なる同國公使館に入りたり同所にては公使アルコーヴァレイ伯以下一等書記官エルケルト并に使者フォン、ハルレム氏外四名列席し宮内省よりは丹羽式部官、根村車馬監立會はれ公使は左の挨拶を爲せり

我が獨國皇帝陛下より貴天皇陛下に御贈進の馬六頭本日到着したるに付便宜上直ちに御引渡致すべし追て公式の獻上は宮中に於てせらるゝ事と信ず

右に對し丹羽式部官は左の答辭を爲す

本日貴國皇帝陛下より御贈進の御馬を受領する事は我々の甚だ榮譽とする處なり此事たる日獨兩國の親交日に加はるの現象にして今後益々親交の永續せん事は確實するを悃ふがるなり云々

右にて一同三鞭酒の杯を舉げ該馬匹は直ちに宮内省に引取りたり今其馬名、年齢等を聞くに左の如し

アトラスタイン▲エコルン▲ハーゲルシユラグ▲アンドクス▲エターフロエンド▲ヒユーネル

以上は何れも獨内帝室トラケーネンの御料牧場に於て產出し飼育せられたる者にして年齢は五才より九歳迄、丈は一米突六五以下にして各青毛の牡馬なり又右御贈進の爲め渡來したる官員は左の如し

獨國帝室廐舍長官(少佐相當官)フォン、ハルレム　調馬事務官(判任官)トランム、調馬師(同)マルチン、ボーゲ、クランム

◎新年歌御會始所役　本年歌御會始め所役は左の通り仰付られたり

讀師	正三位男爵	渡邊千秋
講師	從五位	滋野井實麗
發聲	正三位子爵	綾小路有良
講頌	正三位伯爵	大原重朝
同	從三位子爵	壬生忠敬
同	正四位子爵	持明院基哲
同	正五位	長谷信道

◎兒童發達と家庭　兒童の發達は家庭に大關係のあるは既に明かな事にして之れを少年囚徒や感化院等に觀るも其消息を窺ふに足るものあり殊に兩親なきもの繼母に育てられたるものに惡感化を受け居るもの最も多し今某教育家が更に幼童より尋常中學高等女學校三年生位までの處に就て教育的に研究したる結果に據れば左の如き關係を得たりと云へば兒童發達を研究する人々が參考までに掲ぐ

善的傾向と成り易き事情

▲親の職業　學校教師▲父母との關係(一)父母共存して共に生活するもの(二)父無きも母有るもの▲兒童を世話するもの　父母、父或は母▲性質　善良のもの

惡的傾向と成り易き事情

▲親の職業　軍人、醫師、技術職人、會社員、請負業▲父母との關係(一)兩親無きもの(二)母なきもの(三)實母なく比較的若き繼母に育てらるゝもの(四)他家に寄食せしもの(五)父母ありとも常に出勝なるもの▲兒童を世話するもの(一)兒童を教育するに威嚴なき執事或は書生に托して父母の關係せざるもの(二)殊に母が教育を顧ざるもの▲性質　不良なるもの

以上の如き光景にして父母が家庭に置き注意を用ゐざるが大いなる原因にて軍人や醫師に斯くの如き現状を見るゝ畢竟するに父たる人の兒童教育に注意する暇なく母なる人が餘りに愛に過ぎるのみにて教育思想に缺乏するに因るならんと云ふ

婦人の最も喜ぶ年始贈答品

●色白く艷をだす
松澤ホーサン石鹸
御進物用　大形三個入　小形六個入
大形一個廿錢　小形一個十錢
●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意
●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣す

東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉

各國帝室及ヒ王家御用
ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讚辭ヲ辱フセル者ナリ、小兒、病者又平素不消化ニ苦ム者ニ過當ナル最良滋養食物ナリ。最モ盛カンニ藥舖洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

高等かみ油
(香氣)◎ピース油◎(佳良)

定價大瓶入五十錢　小瓶入三十錢

ピース油は白き油とは違ひ我國婦女子の嗜好に適する樣に多年の經驗によりて製造せるものなり故に一度つければ永日髮の毛のねばりかたまる事なく毛の色を黑くし艷を出し又毛の折り切れる事更になし

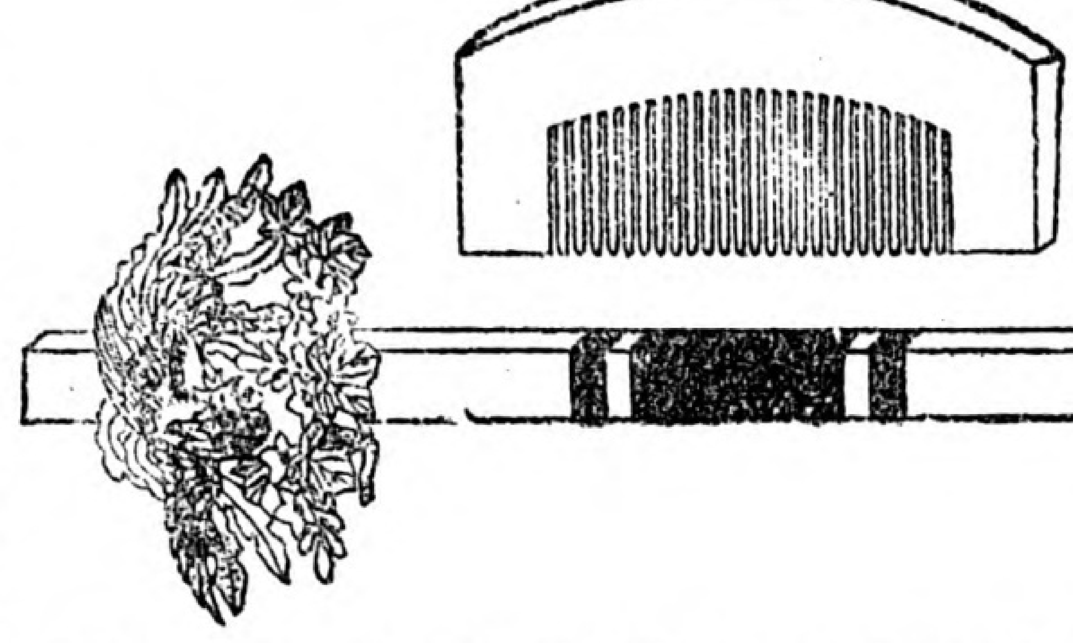
東京日本橋區榑正町
發賣元
前田久昌堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

最新流行

高等婦人洋服
并に御子供洋服
裁縫專門
男女洋服
洋小間物一式 付屬品
販賣
●絨服地
●カシメ袴地
但し御好に隨ひ迅速に調進仕候間多少に不拘御用命奉相願候敬具
東京市本郷區元富士町
二番地本郷郵便局大通
直輸入 婦人洋服品
大河内洋店
（電話下谷五百二十八番）

儀式用御櫛笄

上圖櫛笄の材料は鼈甲を以て鼈甲一と中なにどもの佳からず品質の少からず此る品物の最良なる甲中精選し手にて成りきたる工物にして明透に生ぜず浮ばりなく出さず幾久しく御道具となるべき逸品なり
○本甲製一組價
二十五圓 三十五圓 五十圓 七十五圓 一百圓 百五十圓 二百圓 二百五十圓
○甲張製一組價
十圓 十二圓 十五圓 十八圓 廿圓 廿五圓 三十圓 三十五圓
東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
電話新橋五五一番

正札附陳列場
西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
中久商店
束髮用具
內外化粧品
玩具・文具
東京神田小川町通り
裏神保町一番地

米國聖路易
萬國大博覽會
名譽銀牌受領
花王石鹸
品質善良
衛生ト經濟ニ適ス
本舖 東京 長瀨富郎
關西代理店 大阪 大崎組商會

雜報

●女醫と女醫學生　女醫學校主監吉岡氏の談によれば女子の職業中最も收入多きは女醫にして亦た多く資本を要する事も女醫なり △現今百餘名の女醫中東京に居るは二十餘名なるが病院に奉職しつゝあるものも俸給は四五十圓を下らずして其他諸種の收入あり 更に開業醫に至ては如何に少くとも百二三十圓の收入なきはなかるべく現に日本橋大工町に開業しつゝある高橋ミツ子の如きは五百圓以上の收入を有しつゝありと △尤も高橋ミツ子は檢定試驗及第者中の古參にして年齡も已に五十に近き程故自然得意も多く代診の二人も使ひ居る位也 △女醫學生の學費は如何と云ふに女學生は男學生と異なり酒色等の道に金品を使用する事なきを以て普通の意味に於ける學費は一般女學生と異ならずして十二三圓位にて足れり 但し前期中は參考の書籍も廿圓内外にて足れど後期に至れば書籍費も四五十圓を要し其他檢眼鏡、聽診器、驗溫器の類を初め若し顯微鏡を買ふなどに至つては最も廉き八百圓位のものにても七八十圓は要し 尚ほ醫學を修むる程のものは自身のたしなみにて藥品等も買つて見るが例なれば之を一ヶ月平均にするも普通學費以外二年に平均し來るも一ヶ月に五六圓位は要する事となるべし △先づ五ヶ年千圓と思へば間違なく其上開業費千圓とすれば女子大學を卒業さするよりも金がかゝる事となれど收入も之に準ずる事なれば苦しき思も一時なるべし 但し生徒の種別は大抵餘裕ある家の女子多し △之を女醫學校生徒父兄職業別よりするも農家が四十五人、商人が三十五人、醫家が二十四人と云ふような比例にて農家の子女に何故に志願者多きかと云ふに志願する位の子女の家は概れ富裕なるを發見したり △現今の女醫學校生徒は百二十六名にして後期生は二十名程なれど十名程は尚ほ地方に散在しつつあり而して前後期共に看護婦として出征せし者も尠なからず但し志願者は漸次增加の傾向あるがこは風紀問題の餘響もあるべし云々

●家庭保護に就いて　從來慈善事業として貧者弱者を救ふ場合の如き多く其一個體又は一家内の或る一部に限られ病める父とか傷きし小兒とか其哀むべきものゝ中心とも見なすべきものに對する場合多かりしが種々の經驗を積みし結果さる慈善法は却つて將來に禍害を殘す事多く所謂慈善の精神に背く事のなきにもあらねばそれらの弊を矯むる爲め貧者弱者を救ふ場合には其一人を選出せずして直に其家庭に及ぼさんとする者近來漸く勢力を占むるに至れり かゝる制度は英國スコットランドに於て夙に行はれたり又エディンバラー市の如き昨今其勢力隆々たるものあり 本年白耳義博覽會舉行の時同國内務大臣ルシマーヌ氏を會長として催されたる萬國保護會に於て決議されたる處によれば第一小兒婦人の救護を目的とし、妊婦の保護出產時の保護をなし第二保助を要する全家庭の保護第三肺勞、精神病者の保護、第四弱者及病者の保護の四ヶ條の根本となすべしといふに基き我國の一部婦人界にも其趣意に因り家庭保護會の設立內議ある由

●藤田氏の篤志　藤田傳三郎氏は今回慈惠基金として大阪築港公債證券額面三十萬圓を其出身地なる山口縣を始め現住地大阪府並に事業地秋田、岡山、島根の各府縣下及び臺灣へ寄附せんことを內務大臣に願出でしに同省は其篤志を賞し資金の保護並に使用方法に付尚指導と監督とを盡さんことを既に決定せり然して寄附條件の大要は元資は永久に据置き每年の利子金を以て窮民の慈惠救濟事業に充つるを主として之を貧民教育の資金に使用せんとを期するものなりと

最上醬油元祖
上
○宮內省御用達也
○開業二百六十一年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絕す
○日本一の釀造高也
釀造元 下總銚子町 濱口儀兵衛
荷扱所 東京北新堀七番地（電話浪花二五九四） 濱口支店
北海道函館末廣町 濱口支店
大阪西長堀南通一丁目電特（西二〇〇五） 濱口出張店

登錄商標
市内八御用命節ニ一報直ニ可伺候
定價表ハ御申越次第直ニ呈送仕候
縮緬物製　友禪染
本石町一丁目 佐竹組本舖
電話本局一五一六

御婦人用裝飾品
筒付腰刺煙草入
煙管袋物類
各種
指環 ダイヤモンド、眞珠、ルビー諸寶石入、其他金銀彫刻類
簪類 金銀寶石入、薄肉彫文字活用透し彫
謹賀
新年
帶止 ダイヤモンド、眞珠、寶石入金銀彫刻類其他新意匠品數種
東京日本橋區若松町
丸屋 嘉助
電話浪花七百六十八番
階上には商品見本として種々新規の品備え置き申候間御來觀奉希上候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

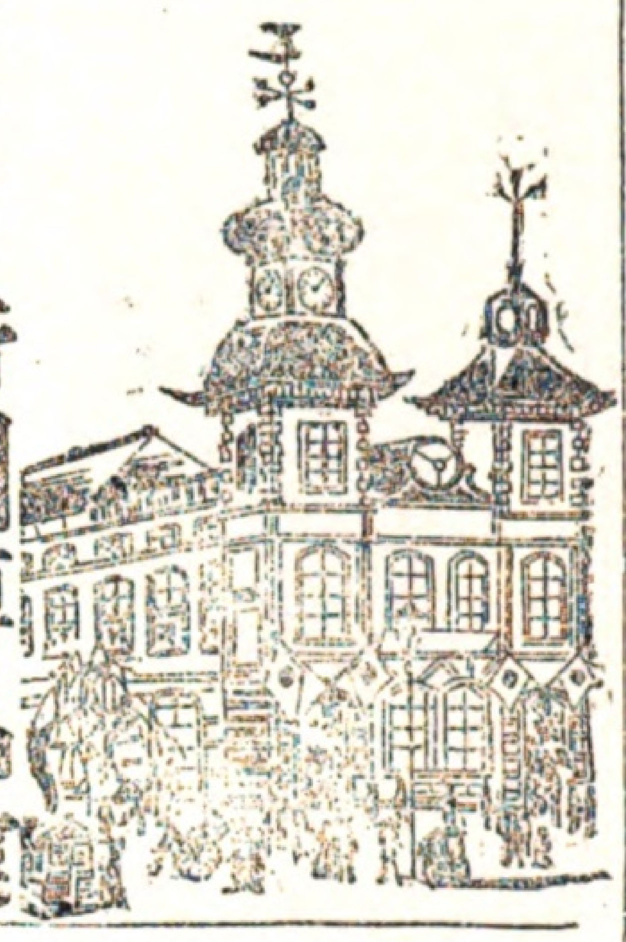
奉祝平和の新年

(本場の特色)

當一月一日二日三日四日年玉呈上仕候

◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市内無賃で配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます



東京新橋角 帝國博品館

電話新橋一六五二 三三六一

二十世紀の大發明品

名和式書狀挾

在來の狀はさみなるものは孰れも不備不完全にして必ず兩手を要し尚且つ具合惡しきの嘆あり玆に於て弊舖今回特許を得たる此の名和式書狀挾みの如きは片手しかも一本の指を以て何百枚を挿むも秩序よく容易になし得る物にして金屬製美術優美にして堅牢なり江湖の諸君幸に本品を實檢の上御購求あらん事を希ふ(定價 鐵製拾錢 鍍錦製拾五錢)

(專賣特許)

年玉用 最も適切

製造發賣元

◎販賣御望みの方は特に御相談上申候

東京日本橋區蠣殼町二丁目十五番地 名和商店

電話浪花千百七十七番

國庫債券賣買

◎國庫大小券面勸業債券貯蓄五圓債券

◎整理軍事帝國五步利公債記名諸公債

特別勉强

◎軍人諸君ニ限リ諸公債擔保最抵利秘密御便利ニ取扱申候

◎御用ノ節ハ電話又ハ電信ニテ御問合被下候得バ直ニ御返事可申上候尚ホ遠隔ノ地ト雖モ爲換便ヲ以テ御用辨相成候樣御取扱可仕候

◎市内店員派出照會往復端書ニ限ル

日本橋區芳町拾番地 泉屋兩替店

(電話浪花一二六六番)

謹賀新年

東髮用トシテハ無比良香油ナリ

東京本郷三丁目 かねやす

電話下谷一三三六番

(ラクダ印)

(麝香石鹼)

ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に感ずべきの香料を多量に含む故嘗て使用せば其香氣身体は元より手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は顏部としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる特點を有す ○(定價大形十錢 小形拾錢) 一ヶ大(熱心勉强なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり)

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意 東京本石町三丁目十八番地 麝香石鹼製造所 井上太兵衛

本會講義錄之批評

▲報知新聞評 高等女學校の全學科をば知名の女子教育家が講述せるもの也 平易と懇切とを主とせるものなれば、何人も難解の虞なかる可く、各科皆聯絡を保ちて其程度を一にせるなど、講述者の苦心を見るに足る、且つ有益なる科外講話の外に「姫百合」と題する五十頁の附錄あり博士學士等の婦人に關する評議史傳衞生家庭等の文字を滿載して、一面雜誌の觀を備ふ、卷末更に田口掬汀の「學者の妻」といへる面白き小説あり、凡そ天下講義錄多しと雖も、實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀なりと云ふ可し

▲中央新聞評 講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也

▲毎日新聞評 米國の通信教授法を參酌せる者、文字平明說明懇篤を盡くせり

▲朝日新聞評 女學獨習の便を圖り平易懇切を旨とせる女學講義を發行せり

▲二六新聞評 高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり

▲日々新聞評 講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり

▲都新聞評 講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を招き得可し

▲貿易新聞評 從來の講義錄中最も進步したるもの、一、三百頁の大册子なり

◎東京神田南甲賀町十番地 (電話本局三千四番) 大日本淑女學會

大日本淑女學會

高等女學通信教授

▲貳ヶ年卒業 ▲講義平易懇切 ▲講義錄月刊一册參百頁 ▲講師は專門の名家 ▲會費低廉

目下入學の好機

詳細なる規則は申込次第進呈す

女子教育

本誌は本邦唯一の女子教育雜誌にて女子高等師範學校教授下田文學士之が編輯主任たり毎號掲載要目は論說、研究、紹介、史傳、文苑、交通、彙報等に於て其範圍頗る廣く、而も下田學士が其歐米各國に求め來られたる多年の研究を此上に傾倒せらる事なれば獨り女子教育界の讀物たるに止まらず亦一般教育界、家庭、社會研究者等の好伴侶たるべし

第三卷壹號 一月一日發行 ○毎月一回 定價一部拾錢 郵稅一錢 一年分 郵稅共一圓二十錢

東京神田錦町一丁目 明治書院

謹賀新年

舊年中は多大の御引立を蒙り難有御禮申上候

就ては例年の通り一月二日三日は初賣の祝として福袋、寄せ切、見切反物類種々取揃置候間倚不相變賑々敷御光來の程奉願上候

(大) 下村呉服店

日本橋區通旅籠町

電話浪花八三三、六六三、六〇五番

恭賀新年 在米國 中村利武

內科小兒科特に呼吸器病 麹町はやぶさ町二十八番地 ドクトル 川瀬元九郎 電話番町八二二番

▲小兒學校生徒診察種痘 毎日午前 東京內幸町一ノ三 三島醫院長 醫學博士 三島通良 電話新橋四七四

院長 醫學博士 榊順次郎 副院長 醫學士 久保徳太郎 每日午前診察 每日夕刻診察 婦人科產科榊病院 東京麹町三番町卅三(電話番町三九五)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）
日本興業銀行
電話本局（三、三〇〇番 四一一番 （特）三七番 一〇二番）
一定期預金 年五分
一當座預金 日步七厘
一特別當座預金 日步一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年六分
當座預金 百圓に付日步 壹錢
特別當座預金 同日步 壹錢參厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋（三〇〇番 一五三〇番 三一九三番）
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花（一九〇一番 三二七四番 三五〇八番）
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
●品質佳良の肉類廉價に販賣候
●配達は迅速に且つ正確に致候
●滋養と風味の西洋料理調製候
●西洋料理出前は格別相働き候
●米店は精撰の白米廉價販賣候
●御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

御徳用御經濟向
本場 秩父銘仙織 特約販賣
今回產地織元と特約相成立ち優等品を撰擇し他店になき廉價に販賣可仕候御注文の節は電話又ははがきにて御申越被下候はゞ見本早速持參可仕候
地方 御注文は御年齡を御通知被下候はゞ品柄行の見本を御送附可仕候（但し郵券十五錢を要す）
東京市本郷三丁目（眞砂町通り）
大 さかいや 井上呉服店
電話下谷一二八五番

美人ムスク石鹸

美人ムスク白粉
東京市日本橋區和泉町
輸入元 桑原花生堂

○銀側兩蓋之部 流行薄手形
價八圓半 瑞西石入向爪アンクル
價十圓半 同惣石卷上向アンクル
價十三圓半 同裏三枚惣石卷上向爪
價十四圓 米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半 米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部 流行薄手形
價三十三圓 瑞西國大金側御婦人持
價六十九圓 瑞西大金側中形紳士持
價七十九圓 米國製大金中形紳士持
價九十五圓 瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓 米國製18金形18紳士持
商品案內 無代進呈
東京市京橋區銀座一丁目 電話新橋（二三三一）
伊勢時計店

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐內町 美濃磯佐內町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰內科醫院
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

東京日本橋區濱町三丁目七番地
產科婦人科 楠田病院

◎婦人科專門 午前宅診
◎小兒科專門 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

山口眼科病院
東京神田錦町參丁目電本七一五
院長 醫學士 山口秀高
診察午前午後 入院隨時

內科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前往診 午後宅診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

●水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

產科婦人科專門 ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
各科診察從前の通
東京病院
芝愛宕電新二六四

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番
午前診察 午後往診

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
●電話下谷七一八番

●產科婦人科
●京橋區南鍋町一の一角
●朝八時より正午 ●夕五時より八時
醫學士 伊庭秀榮

耳鼻咽喉病 診療午後 自三時至七時
淺草區北三筋町五九（小島町電車停留場際）
白木耳鼻咽喉科院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年一月一日發行（每月五日二十日二回）

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田千代田町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區八官町 廣告堂
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜社
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

年始進物用適當品

洗用 ワッセル

●此ワッセルは油じみ油あか如何なるよごれても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
●用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシヤツの如きは（拾貳號）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾貳號入 金拾五錢 六號入 金八錢 袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワッセル

●此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價 最上 金七拾五錢 參拾錢 拾七錢 金貳拾錢 普通 五拾錢 六錢 三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七二二
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會

謹賀新年

一嶄新高尙肩掛長卷
一巴里新流行高等婦人帽子。並にボーア
一英國ビーハイ印毛糸並に玉スコッチ
一凱旋軍隊玩具各種
一洋花。リボン。レース流行コム櫛。香水石鹼白粉 其他西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與 三枝小賣店
電話新橋三九二七

煉香油パール發賣元
東京濱町一 電浪一一〇
平尾分店

謹賀新年 併に各位の萬福を祈り倘將來御愛顧を希ふ

●御進物用一打半打箱入●提籠及紙函入各種●西洋酒類品々麥酒各種

壜詰清酒 世界長

一升入 四升入 二合入

日本橋區堀江町四丁目一番地 照降町通り
發賣元 高橋商店 電話浪花一五六一番

賀正 愛國婦人記者一同

從四位淺田宗伯先生直傳 淺田飴

だんせきに あさだ淺田飴 すきはら空腹に めし

長藥にして口に甘し

定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す
本家 大阪北久寶寺町 東京日本橋鍛冶町 堀内伊太郎

●食料品罐詰類品々●滋養西洋菓子ビスケット類品々●喰煕類品々

洋酒食料品雜貨卸小賣

西洋酒食料品、シガー、シガレット、香水、石鹼、食卓用器具及製菓用道具一式 直輸入

東京神田南神保町十二番地（電話本局二四五二）
櫻屋商店

謹賀新年

勅題模樣併ニ御季節向流行珍柄種々取揃有之候是非御高覽之程奉願上候

東京神田今川橋
まつや
電話本局 六百八十八番 七百四十七番

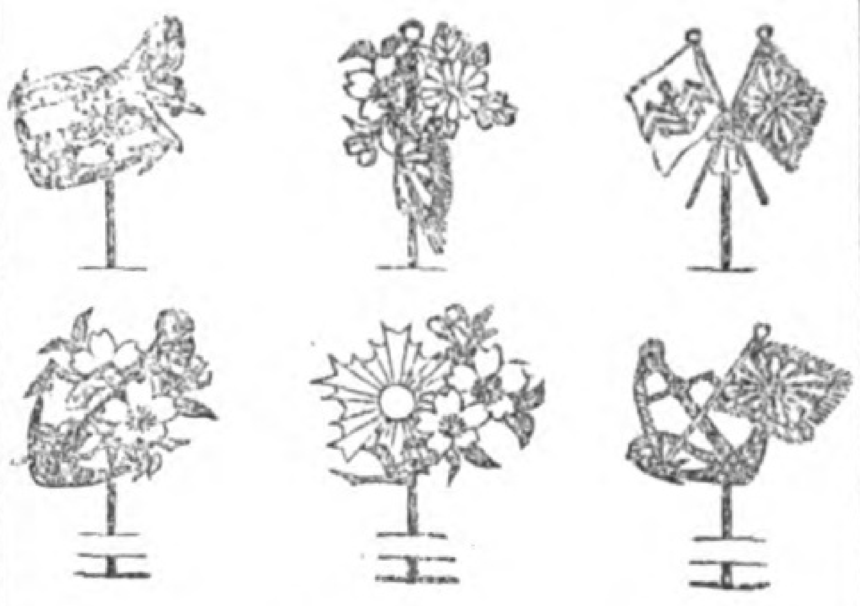
恭賀新年 相變らず御愛顧を希ふ

貴婦人用小間物類 京染御半ゑり

東京日本橋通三丁目角 小間物店 同向ひ角 半ゑり店

[illegible]
電話本局二千九百四十七番

謹賀新年



銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價 純銀製一個 金三十五錢以上
餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達 玉寶堂
東京市下谷區池の端仲町
電話下谷 特九六五番 一二四四番

大日本女學會

●本會は十年來女學の通信教授に任し本會の教を受けし者既に三萬二千人に及べり
●本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に奉戴し鍋島侯爵夫人會長として會務を監督す
●本會が十年來女子教育に盡せる事 皇后陛下の御聞に達し特に御歌を賜はりたり
●本會の講義錄に高等科と簡易科とあり高等科は月謝四十錢簡易科は同二十錢なり
●今度新學期を開き簡易科は十一月五日に高等科は同廿五日に孰れも初卷を發行せり
東京市麴町區下二番町三十七番地 大日本女學會 電話番町一三三〇
●詳細なる會則希望者はハガキにて請求あれ

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 愛國婦人會內

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國圖書館
IMPERIAL LIBRARY

富美宮允子内親王殿下

泰宮聰子内親王殿下

發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ケ谷加賀町 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN